

第四十一回 貴族院議事速記録第十六號

大正八年三月十日(月曜日)

午前十時九分開議

議事日程 第十六號 大正八年三月十日

午前十時開議

第一 伯爵奧平昌恭君、三木與吉郎君請暇ノ件

第二 請願委員長報告

第三 衆議院議員選舉法中改正法律案(政府提出、衆議院送付)

第四 大正六年法律第六號中改正法律案(政府提出、衆議院送付)

第五 史蹟名勝天然紀念物保存法案(侯爵德川賴倫君外六名發議) 第一讀會ノ續(委員長報告) 第一讀會

第六 工業原料植物研究所設置ニ關スル建議案(侯爵德川賴倫君外六名發議) 第一讀會

第七 下關港修築ノ請願 會 議

第八 喫煙取締法制定ノ請願 會 議

第九 八戸町ヨリ久慈町ヲ經テ野田村ニ達スル輕便鐵道敷設ノ請願 會 議

第十 天鹽線ヲ稚内ヨリ起工速成ノ請願 會 議

第十一 大正六年法律第六號軍人恩給法附則改正ノ請願 會 議

第十二 帝國在郷軍人會國庫補助ノ請願 會 議

○議長(公爵德川家達君) 是ヨリ報告ヲ致サセマス

〔岡書記官朗讀〕

去ル七日本院ニ於テ可決シタル左ノ政府提出案ハ即日裁可ヲ奏請シ又可決ノ旨ヲ衆議院ニ通知セリ

事業公債金特別會計法案

臨時國庫證券法中改正法律案

朝鮮事業公債法中改正法律案

臺灣事業公債法中改正法律案

造幣局据置運轉資本增加及設備擴張費ニ關スル法律案

鐵道敷設法中改正法律案

北海道鐵道敷設法中改正法律案

北海道舊土人保護法中改正法律案

同日本院ニ於テ採擇スヘキモノト議決シタル釧路相生間鐵道敷設ノ請願外七件ノ請願ハ各意見書ヲ附シ即日之ヲ政府ニ送付セリ

同日請願委員長ヨリ左ノ報告書ヲ提出セリ

請願委員會特別報告第五號

一昨八日特別委員會ニ於テ當選シタル正副委員長ノ氏名左ノ如シ

精神病院法案外二件特別委員會

委員長 侯爵花山院 親家君 副委員長 北里 柴三郎君

同日議員侯爵德川賴倫君外六名ヨリ六十九名ノ贊成ヲ以テ左ノ法律案ヲ發議セリ

史蹟名勝天然紀念物保存法案

同日議員侯爵德川賴倫君外六名ヨリ四十五名ノ贊成ヲ以テ工業原料植物研究所設置ニ關スル建議案ヲ發議セリ

同日衆議院ヨリ左ノ政府提出案ヲ受領セリ

衆議院議員選舉法中改正法律案

○議長(公爵德川家達君) 是ヨリ會議ヲ開キマス、去ル七日本院議員三島子爵ノ薨去ノ報ニ接シマシタ、洵ニ痛惜ノ至ニ堪ヘマセヌ、依ッテ弔辭ヲ贈リタイト存ジマス、御異議ゴザイマセスカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(公爵德川家達君) 御異議ナイト認メマス

○議長(公爵德川家達君) 日程第一、伯爵奧平昌恭君、三木與吉郎君請暇ノ件、奧平伯爵病氣ニ付キ十一日間ノ請暇デゴザイマス、許可イタシテ御異存ゴザイマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(公爵德川家達君) 日程第一、伯爵奧平昌恭君、三木與吉郎君請暇ノ件、奧平伯爵病氣ニ付キ十一日間ノ請暇デゴザイマス、許可イタシテ御異存ゴザイマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(公爵德川家達君) 御異議ナイト認メマス、此際諸君ニ申上ゲマスガ、

貴族院議事速記録第十六號 大正八年三月十日 報告 請暇ノ件

二五九

三木君ノ請暇ハ申出ヲ取消サレマシタカラ、議事日程カラ削除イタシマス

○議長(公爵徳川家達君) 日程第二、請願委員長報告、細川侯爵

〔侯爵細川護立君演壇ニ登ル〕

○侯爵細川護立君 前回御報告申上ゲマシタ後、即チ二月九日ヨリ三月八日マデ委員會四回、分科會十七回開キマシタ、請願文書表ノ報告及特別報告ハ各、四回デゴザイマス、請願書ノ受領件數カ百六十七件、二百六十九通、同ジク連署人名數ガ一万六千九十名デゴザイマス、審査ノ經過及結果ヲ申上ゲマスレバ、第一回報告ノ際ニ文書表ニ掲載イタシマシタモノノ内、審査未了ノモノ五十七件、九十一通、第一回報告後請願文書表ニ掲載シマシタ數ガ百四十六件、二百十四通、合計二百三十三件、三百五通、此内院議ニ付スベシト決議イタシタモノガ三十六件、六十五通、院議ニ付スルヲ要セズト議決イタシタモノガ三十七件、五十通、審査未了ノモノ百三十件、百九十通、請願文書表ニ未ダ掲載イタシマセヌモノガ三十七件、八十七通デゴザイマス、尙ホ請願文書ヲ御紹介ノ御方ハ成ルベク今月十五日マデニ願ヒタイト存ジマス、此段申上ゲマス

○議長(公爵徳川家達君) 唯今議長ガ申落シマシタガ、三島子爵ノ薨去ノ結果、豫算委員ニ缺員ヲ生ジマシタ、第四部ニ於テ其補闕選舉ヲ速ニ行ハレムコトヲ望ミマス

○議長(公爵徳川家達君) 日程第三、衆議院議員選舉法中改正法律案、政府提出、衆議院送付、第一讀會、本日モ通牒文ノ朗讀ハ省略イタシタイト存ジマス、御異議ゴザイマセヌカ

〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○議長(公爵徳川家達君) 御異議ナイト認メマス

〔左ノ送付文及議案ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノタメ茲ニ載録ス以下之ニ倣フ〕

衆議院議員選舉法中改正法律案

右政府提出案本院ニ於テ修正議決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

大正八年三月八日

貴族院議長公爵徳川家達殿

衆議院議員選舉法中改正法律案

衆議院議長 大岡育造

〔小字ハ衆議院ノ修正、ハ同削除ノ符號ナリ〕

衆議院議員選舉法中左ノ通改正ス

第三條中「町村ノ事務ノ全部」ノ下ニ「又ハ役場事務」ヲ加フ

第五條 削除

第六條 郡市長ハ選舉長トナリ選舉會ニ關スル事務ヲ擔任ス

一 選舉區數郡市ニ涉ルトキハ地方長官ハ關係郡市長ノ一人ヲシテ選舉長ヲシムヘシ

第八條第二號及第三號ヲ左ノ如ク改ム

二 選舉人名簿調製ノ期日迄引續キ滿六箇月以上同一選舉區内ニ住所ヲ有スル者

三 選舉人名簿調製ノ期日迄引續キ滿一年以上直接國稅三圓以上ヲ納ムル者

家督相續ニ依リ財産ヲ取得シタル者ニ付テハ其ノ財産ニ付被相續人ノ爲シタル納稅ヲ以テ其ノ者ノ爲シタル納稅ト看做ス

第九條中「年限」ヲ「期間」ニ改ム

第十一條第三號ヲ左ノ如ク改ム

三 六年ノ懲役又ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者

四 六年未滿ノ懲役又ハ禁錮ノ刑ニ處セラレ其ノ執行ヲ終リ又ハ執行ヲ受クルコトナキニ至ル迄ノ者

第十三條第二項ヲ左ノ如ク改ム

政府ニ對シ請負ヲ爲ス者及其ノ支配人又ハ主トシテ同一ノ行爲ヲ爲ス法人ノ無限責任社員、役員及支配人ハ被選舉權ヲ有セス

前項ノ役員トハ發起人、取締役、監查役及之ニ準スヘキ者並清算人ヲ謂フ第十四條中「選舉區内」ヲ「關係郡市内」ニ改ム

第十八條中「生年月」ヲ「生年月日」ニ改ム

第三十四條中「投票簿ニ捺印シ」ヲ削ル

第四十二條 投票管理者ハ一名又ハ數名ノ投票立會人ト共ニ町村ノ投票區又ハ郡ト合セテ選舉區ヲ爲ス市ノ投票區ニ於テハ投票ノ翌日迄ニ、其ノ

他ノ投票區ニ於テハ投票ノ當日投票函、投票録及選舉人名簿ヲ選舉長ニ送致スヘシ

第四十三條中「開票」ヲ「選舉會」ニ改ム

第四十四條中「選舉長」ニ「選舉長ヲ經テ地方長官」ニ、「選舉長ハ」ヲ「地方長官ハ」ニ改ム

第五十條但書ヲ左ノ如ク改ム

但シ投票管理者ハ投票所ノ秩序ヲ紊ルノ虞ナシト認ムル場合ニ於テ投票ヲ爲サシムルヲ妨ケス

第六章 選舉會

第五十一條 選舉會ハ選舉長ノ屬スル郡市役所又ハ地方長官ノ許可ヲ得テ選舉長ノ指定シタル場所ニ之ヲ開ク

第五十二條 選舉長ハ豫メ選舉會ノ場所及日時ヲ告示スベシ

第五十三條 地方長官ハ各選舉區内ニ於ケル選舉人中ヨリ三名以上七名以下ノ選舉立會人ヲ選任シ選舉會ノ期日ヨリ少クモ三日前ニ之ヲ本人ニ通知シ選舉會ニ參會セシムヘシ

選舉立會人ハ正當ノ事故ナクシテ其ノ職ヲ辭スルコトヲ得ス

第五十四條 選舉長ハ總テノ投票函ノ送致ヲ受ケタル日ノ翌日選舉會ヲ開

キ選舉立會人立會ノ上投票函ヲ開キ投票ノ總數ト投票人ノ總數トヲ計算スヘシ

第五十五條中「開票管理者」ヲ「選舉長」ニ、「開票立會人」ヲ「選舉立會人」ニ改ム

メ左ノ一項ヲ加フ

一選舉區數郡市ニ涉ルトキハ各都市別ニ前項ノ手續ヲ爲スヘシ

第五十六條 選舉人ハ其ノ選舉會ノ參觀ヲ求ムルコトヲ得

第五十七條 中「開票立會人」ヲ「選舉立會人」ニ、「開票管理者」ヲ「選舉長」ニ改ム
投票ノ效力ハ選舉立會人ノ意見ヲ聽キ選舉長之ヲ決定スヘシ

第五十八條ニ左ノ二號及一項ヲ加フ

六 被選舉人ノ氏名ヲ自書セサルモノ

七 衆議院議員ノ職ニ在ル者ノ氏名ヲ記載シタルモノ

前項第七號ノ規定ハ第七十四條又ハ第七十八條ノ規定ニ依ル選舉ノ場合ニ限リ之ヲ適用ス

第五十九條中「開票管理者」ヲ「選舉長」ニ改ム
メ左ノ一項ヲ加フ

一選舉區數郡市ニ涉ルトキハ各都市別ニ前項ノ手續ヲ爲スヘシ

第六十條 選舉長ハ選舉録ヲ作り選舉會ニ關スル顛末ヲ記載シ選舉立會人ト共ニ署名シ投票録ト併セテ議員ノ任期間之ヲ保存スヘシ

選舉ノ一部無効トナリ更ニ選舉ヲ行ヒタル場合ニ於ケル選舉會ニ於テハ其ノ投票ノ效力ヲ決定スヘシ

第六十一條 削除

第六十二條中「開票」ヲ「選舉會」ニ改ム

第六十三條中「開票所」ヲ「選舉會場」ニ改ム

第七章 削除

第六十四條 削除

第六十五條 削除

第六十六條 削除

第六十七條 削除

第六十八條 削除

第六十九條 削除

第七十條第二項乃至第五項ヲ左ノ如ク改ム

當選人ヲ定ムルニ當リ得票數同シキトキハ年齡多キ者ヲ取り年齡モ亦同

シキトキハ選舉會ニ於テ選舉長抽籤シテ之ヲ定ム

選舉訴訟若ハ當選訴訟ノ結果更ニ選舉ヲ行フコトナクシテ當選人ヲ定ムヘキ場合ニ於テハ選舉會ヲ開キ之ヲ定ムヘシ

當選人當選ヲ辭シタルトキ、死亡者ナルトキ又ハ選舉ニ關スル犯罪ニ依

リ刑ニ處セラレ其ノ當選無効トナリタルトキ其ノ當選人第二項ノ規定ニ

依リ當選人トナリタル者ナル場合ニ於テハ選舉會ヲ開キ其ノ規定ノ適用

ヲ受ケタル他ノ得票者ニ就キ當選人ヲ定ムヘシ

前二項ノ場合ニ於テハ第五十四條第五十五條第五十七條乃至第五十九條

〇第六十一條
〇ノ規定ヲ適用セス

第七十一條 當選人定マリタルトキハ選舉長ハ直ニ當選人ニ當選ノ旨ヲ告

知シ同時ニ當選人ノ氏名、得票數及選舉人名簿ニ記載セラレタル者ノ總

數其ノ他選舉ノ顛末ヲ地方長官ニ報告スヘシ

當選人ナキトキ又ハ當選人議員ノ定數ニ達セサルトキハ選舉長ハ直ニ其

ノ旨ヲ地方長官ニ報告スヘシ

第七十二條ニ左ノ一項ヲ加フ

選舉長第一項ノ規定ニ依ル届出ヲ受ケタルトキハ直ニ其ノ旨ヲ地方長官ニ報告スヘシ

第七十四條 左ニ掲クル事由ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ更ニ選舉ヲ行フコトナクシテ當選人ヲ定メ得ルトキ又ハ左ニ掲クル其ノ他ノ事由ニ依リ若ハ第七十八條第四項ノ規定ニ依リ選舉ノ期日ヲ告示シタルトキヲ除クノ外地方長官ハ選舉ノ期日ヲ定メ豫メ之ヲ告示シ更ニ選舉ヲ行ハシムヘシ

一 當選人ナキトキ又ハ當選人議員ノ定數ニ達セサルトキ

二 當選人當選ヲ辭シタルトキ又ハ死亡者ナルトキ

三 選舉訴訟若ハ當選訴訟ノ結果ニ依リ當選人ナキニ至リ又ハ當選人議員ノ定數ニ達セサルニ至リタルトキ

四 當選人選舉ニ關スル犯罪ニ依リ刑ニ處セラレ其ノ當選無効トナリタルトキ

選舉訴訟若ハ當選訴訟ノ出訴期間ハ前項ノ規定ニ依リ選舉ヲ行フコトヲ得ス其ノ出訴アリタル場合ニ於テ訴訟繫屬中亦同シ

第七十八條 議員ニ關員ヲ生シタルトキハ内務大臣ハ地方長官ニ其ノ補闕ノ手續ヲ爲スヘキ旨ヲ命スヘシ

地方長官ハ第七十四條ノ規定ニ依リ選舉ノ期日ヲ告示シタルトキヲ除クノ外前項ノ規定ニ依ル命ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ補闕選舉ヲ行ハシムヘシ但シ第七十條第二項ノ規定ニ依リ當選人トナリタル議員關員トナリタルトキハ直ニ其ノ旨ヲ選舉長ニ通知スヘシ

選舉長ハ前項但書ノ規定ニ依ル通知ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ第七十條第四項及第五項ノ規定ヲ準用シ當選人ヲ定ムヘシ

補闕選舉ノ期日ハ地方長官豫メ之ヲ告示スヘシ

第七十四條第二項ノ規定ハ補闕選舉ニ之ヲ準用ス

第八十二條ニ左ノ一項ヲ加フ

當選訴訟ノ裁判確定前當選人死亡シタルトキハ檢事ヲ被告トス

第八十四條ニ左ノ一項ヲ加ヘ之ヲ第一項トス

選舉訴訟若ハ當選訴訟ノ出訴アリタルトキハ裁判所ハ其ノ旨ヲ内務大臣ニ通知スヘシ訴訟ノ繫屬セサルニ至リタルトキ亦同シ

第八十六條中「十圓以上五十圓以下ノ罰金」ヲ「五十圓以下ノ罰金」ニ改ム

第八十七條 左ノ各號ニ掲クル行爲ヲ爲シタル者ハ一年以下ノ禁錮又ハ二

百圓以下ノ罰金ニ處ス

一 議員候補者カ投票ヲ得ル目的ヲ以テ選舉人又ハ選舉運動者ニ對シ金錢、物品、手形其ノ他ノ財産上ノ利益又ハ公私ノ職務ノ供與若ハ其

ノ供與ノ約束ヲ爲シ又ハ其ノ供與ノ申込ヲ爲シタルトキ

二 議員候補者カ投票ヲ得ル目的ヲ以テ選舉人又ハ選舉運動者ニ對シ酒食、遊覽等其ノ方法及名義ノ何タルヲ問ハス饗應接待若ハ其ノ饗應接待ノ約束ヲ爲シ又ハ其ノ饗應接待ノ申込ヲ爲シタルトキ

三 議員候補者カ投票ヲ得ル目的ヲ以テ選舉人ニ對シ投票所ニ往復スル爲ノ船車馬ノ類ノ供給旅費宿泊料ノ類ノ代辦若ハ其ノ供給代辦ノ約束ヲ爲シ又ハ其ノ供給代辦ノ申込ヲ爲シタルトキ

四 議員候補者カ投票ヲ得ル目的ヲ以テ選舉人又ハ選舉運動者ニ對シ選舉人若ハ選舉運動者又ハ其ノ關係アル社寺、學校、會社、組合、市町村等ニ對スル用水、小作、債權、寄附其ノ他利害ノ關係ヲ利用シテ誘導ヲ爲シタルトキ

五 議員候補者若ハ選舉運動者カ投票ヲ爲サシメサル目的ヲ以テ又ハ選舉運動者カ議員候補者ノ爲ニ投票ヲ爲サシメル目的ヲ以テ第一號乃至第三號ノ供與饗應接待供給代辦若ハ其ノ約束ヲ爲シ又ハ第一號乃至第三號ノ申込若ハ前號ノ誘導ヲ爲シタルトキ

六 議員候補者又ハ選舉運動者カ議員候補者ヲシテ議員候補者タルコトヲ止メシメ又ハ選舉運動者ヲシテ選舉運動ヲ止メシメル目的ヲ以テ其ノ者ニ對シ第一號ノ供與其ノ供與ノ約束若ハ其ノ供與ノ申込ヲ爲シタルトキ又ハ其ノ者若ハ其ノ者ニ關係アル社寺、學校、會社、組合、市町村等ニ對スル用水、小作、債權、寄附其ノ他利害ノ關係ヲ利用シテ誘導ヲ爲シタルトキ

七 投票ヲ爲シ若ハ爲ササルコト議員候補者タルコトヲ止メタルコト選舉運動ヲ爲シ若ハ止メタルコト又ハ其ノ周旋勸誘ヲ爲シタルコトノ報酬ト爲ス目的ヲ以テ議員候補者又ハ選舉運動者カ選舉人、議員候補者又ハ選舉運動者ニ對シ第一號ノ供與若ハ第二號ノ饗應接待、其ノ供與若ハ饗應接待ノ約束又ハ其ノ供與若ハ饗應接待ノ申込ヲ爲シタルトキ

八 第一號乃至第三號前三號ノ供與饗應接待供給代辦ヲ受ケ若ハ要求シ

又ハ第一號乃至第三號前三號ノ申込ヲ承諾シ若ハ第四號乃至第六號ノ誘導ニ應シタルトキ

九 第一號乃至前號ニ掲クル行爲ニ關シ周旋又ハ勸誘ヲ爲シタルトキ前項ノ場合ニ於テ收受シタル利益ハ之ヲ沒收ス其ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハサルトキハ其ノ價額ヲ追徴ス

第八十八條 選舉ニ關シ左ノ各號ニ掲クル行爲ヲ爲シタル者ハ二年以下ノ禁錮又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

一 選舉人、議員候補者又ハ選舉運動者ニ對シ暴行若ハ脅迫ヲ加ヘ又ハ之ヲ拐引シタルトキ

二 選舉人、議員候補者若ハ選舉運動者ノ往來ノ便ヲ妨ケ又ハ詐僞ノ方法ヲ以テ投票若ハ選舉運動ヲ妨ケ、爲サシメ若ハ止メシメタルトキ

三 選舉人、議員候補者若ハ選舉運動者又ハ其ノ關係アル社寺、學校、會社、組合、市町村等ニ對スル用水、小作、債權、寄附其ノ他利害ノ關係ヲ利用シテ選舉人、議員候補者又ハ選舉運動者ヲ威逼シタルトキ

第八十九條中「二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ五圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス」ヲ「二年以下ノ禁錮又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス」ニ改メ同條ニ左ノ一項ヲ加フ

選舉ニ關シ官吏又ハ吏員故意ニ其ノ職務ノ執行ヲ怠リ又ハ職權ヲ濫用シテ選舉ノ自由ヲ妨害シタルトキハ二年以下ノ禁錮ニ處ス

官吏又ハ吏員其ノ職權ヲ濫用シ選舉人ニ對シ其ノ投票セムトシ又ハ投票シタル被選舉人ノ氏名ノ表示ヲ強要シタルトキハ三月以下ノ禁錮又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第九十條中「開票所」ヲ「選舉會場」ニ、「一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處シ又ハ十圓以上百圓以下ノ罰金」ヲ「一年以下ノ禁錮又ハ二百圓以下ノ罰金」ニ、

「投票ヲ取出シタル者ノ罰亦前項ニ同シ」ヲ「投票ヲ取出シタル者ハ三年以下ノ禁錮又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス」ニ改ム

第九十一條中「暴行」ヲ「暴行若ハ脅迫」ニ、「四月以上四年以下ノ輕禁錮」ヲ「四年以下ノ輕禁錮」ニ改メ「開票管理者」、「開票所」及第二項ヲ削ル

第九十二條 多衆聚合シテ第八十八條第一號又ハ前條ノ罪ヲ犯シタル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス

一 首魁ハ一年以上七年以下ノ禁錮ニ處ス

二 他人ヲ指揮シ又ハ他人ニ率先シテ勢ヲ助ケタル者ハ六月以上五年以下ノ禁錮ニ處ス

三 附和隨行シタル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第八十八條第一號又ハ前條ノ罰ヲ犯ス爲多衆聚合シ當該公務員ヨリ解散ノ命ヲ受クルコト三回以上ニ及フモ仍解散セサルトキハ首魁ハ二年以下ノ禁錮ニ處シ其ノ他ノ者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第九十三條中「選舉人、議員候補者及選舉運動者ニシテ」ヲ削リ「二年以下ノ輕禁錮又ハ五百圓以上二百圓以下ノ罰金」ヲ「二年以下ノ禁錮又ハ三百圓以下ノ罰金」ニ改ム

第九十四條中「開票所」ヲ削リ「前條ノ例ニ依リ一等ヲ加フ」ヲ「三年以下ノ禁錮又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス」ニ改ム

第九十五條中「十五日以上六月以下ノ輕禁錮ニ處シ又ハ五圓以上百圓以下ノ罰金」ヲ「六月以下ノ禁錮又ハ百圓以下ノ罰金」ニ改ム

第九十六條 演說又ハ新聞紙、雜誌、引札、張札其ノ他何等ノ方法ヲ以テスルニ拘ラス第八十七條第八十八條第九十條乃至前條ノ罪ヲ犯サシムル目的ヲ以テ人ヲ煽動シタル者ハ一年以下ノ禁錮又ハ二百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス但シ新聞紙、雜誌ニ在リテハ仍其ノ編輯人及實際編輯ヲ擔當シタル者ヲ罰ス

第九十七條中「六月以下ノ輕禁錮ニ處シ五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス」ヲ「二年以下ノ禁錮又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス」ニ改ム

第九十八條 選舉人ニ非サル者投票ヲ爲シタルトキハ一年以下ノ禁錮又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

氏名ヲ詐稱シ其ノ他詐僞ノ方法ヲ以テ投票ヲ爲シタル者又ハ投票ヲ偽造シ若ハ其ノ數ヲ増減シタル者ハ二年以下ノ禁錮又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

選舉事務ニ關係アル官吏、吏員、立會人又ハ監視者前項ノ罪ヲ犯シタルトキハ三年以下ノ禁錮又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第九十九條中「五圓以上五十圓以下ノ罰金」ヲ「五十圓以下ノ罰金」ニ改ム

第一百條中「第九十二條第二項」ヲ削ル

第一百一條中「選舉ニ關スル犯罪ニ依リ」ヲ「本章ニ掲クル罪ヲ犯シ」ニ改ム

—
人

京 都 府																						
第 三 區	第 二 區	第 一 區	第 十 六 區	第 十 五 區	第 十 四 區	第 十 三 區	第 十 二 區	第 十 一 區	第 十 區	第 九 區	第 八 區	第 七 區	第 六 區	第 五 區	第 四 區	第 三 區	第 二 區					
上 京 區			下 京 區			愛 宕 郡			葛 野 郡			乙 訓 郡			紀 伊 郡							
上 京 區			下 京 區			愛 宕 郡			葛 野 郡			乙 訓 郡			紀 伊 郡							
上 京 區			下 京 區			愛 宕 郡			葛 野 郡			乙 訓 郡			紀 伊 郡							
上 京 區			下 京 區			愛 宕 郡			葛 野 郡			乙 訓 郡			紀 伊 郡							
上 京 區			下 京 區			愛 宕 郡			葛 野 郡			乙 訓 郡			紀 伊 郡							
上 京 區			下 京 區			愛 宕 郡			葛 野 郡			乙 訓 郡			紀 伊 郡							
上 京 區			下 京 區			愛 宕 郡			葛 野 郡			乙 訓 郡			紀 伊 郡							
上 京 區			下 京 區			愛 宕 郡			葛 野 郡			乙 訓 郡			紀 伊 郡							
上 京 區			下 京 區			愛 宕 郡			葛 野 郡			乙 訓 郡			紀 伊 郡							
上 京 區			下 京 區			愛 宕 郡			葛 野 郡			乙 訓 郡			紀 伊 郡							
上 京 區			下 京 區			愛 宕 郡			葛 野 郡			乙 訓 郡			紀 伊 郡							
上 京 區			下 京 區			愛 宕 郡			葛 野 郡			乙 訓 郡			紀 伊 郡							
上 京 區			下 京 區			愛 宕 郡			葛 野 郡			乙 訓 郡			紀 伊 郡							
上 京 區			下 京 區			愛 宕 郡			葛 野 郡			乙 訓 郡			紀 伊 郡							
上 京 區			下 京 區			愛 宕 郡			葛 野 郡			乙 訓 郡			紀 伊 郡							
上 京 區			下 京 區			愛 宕 郡			葛 野 郡			乙 訓 郡			紀 伊 郡							
上 京 區			下 京 區			愛 宕 郡			葛 野 郡			乙 訓 郡			紀 伊 郡							
上 京 區			下 京 區			愛 宕 郡			葛 野 郡			乙 訓 郡			紀 伊 郡							
上 京 區			下 京 區			愛 宕 郡			葛 野 郡			乙 訓 郡			紀 伊 郡							
上 京 區			下 京 區			愛 宕 郡			葛 野 郡			乙 訓 郡			紀 伊 郡							
上 京 區			下 京 區			愛 宕 郡			葛 野 郡			乙 訓 郡			紀 伊 郡							
上 京 區			下 京 區			愛 宕 郡			葛 野 郡			乙 訓 郡			紀 伊 郡							
上 京 區			下 京 區			愛 宕 郡			葛 野 郡			乙 訓 郡			紀 伊 郡							
上 京 區			下 京 區			愛 宕 郡			葛 野 郡			乙 訓 郡			紀 伊 郡							
上 京 區			下 京 區			愛 宕 郡			葛 野 郡			乙 訓 郡			紀 伊 郡							
上 京 區			下 京 區			愛 宕 郡			葛 野 郡			乙 訓 郡			紀 伊 郡							
上 京 區			下 京 區			愛 宕 郡			葛 野 郡			乙 訓 郡			紀 伊 郡							
上 京 區			下 京 區			愛 宕 郡			葛 野 郡			乙 訓 郡			紀 伊 郡							
上 京 區			下 京 區			愛 宕 郡			葛 野 郡			乙 訓 郡			紀 伊 郡							
上 京 區			下 京 區			愛 宕 郡			葛 野 郡			乙 訓 郡			紀 伊 郡							
上 京 區			下 京 區			愛 宕 郡			葛 野 郡			乙 訓 郡			紀 伊 郡							
上 京 區			下 京 區			愛 宕 郡			葛 野 郡			乙 訓 郡			紀 伊 郡							
上 京 區			下 京 區			愛 宕 郡			葛 野 郡			乙 訓 郡			紀 伊 郡							
上 京 區			下 京 區			愛 宕 郡			葛 野 郡			乙 訓 郡			紀 伊 郡							
上 京 區			下 京 區			愛 宕 郡			葛 野 郡			乙 訓 郡			紀 伊 郡							
上 京 區			下 京 區			愛 宕 郡			葛 野 郡			乙 訓 郡			紀 伊 郡							
上 京 區			下 京 區			愛 宕 郡			葛 野 郡			乙 訓 郡			紀 伊 郡							
上 京 區			下 京 區			愛 宕 郡			葛 野 郡			乙 訓 郡			紀 伊 郡							
上 京 區			下 京 區			愛 宕 郡			葛 野 郡			乙 訓 郡			紀 伊 郡							
上 京 區			下 京 區			愛 宕 郡			葛 野 郡			乙 訓 郡			紀 伊 郡							
上 京 區			下 京 區			愛 宕 郡			葛 野 郡			乙 訓 郡			紀 伊 郡							
上 京 區			下 京 區			愛 宕 郡			葛 野 郡			乙 訓 郡			紀 伊 郡							
上 京 區			下 京 區			愛 宕 郡			葛 野 郡			乙 訓 郡			紀 伊 郡							
上 京 區			下 京 區			愛 宕 郡			葛 野 郡			乙 訓 郡			紀 伊 郡							
上 京 區			下 京 區			愛 宕 郡			葛 野 郡			乙 訓 郡			紀 伊 郡							
上 京 區			下 京 區			愛 宕 郡			葛 野 郡			乙 訓 郡			紀 伊 郡							
上 京 區			下 京 區			愛 宕 郡			葛 野 郡			乙 訓 郡			紀 伊 郡							
上 京 區			下 京 區			愛 宕 郡			葛 野 郡			乙 訓 郡			紀 伊 郡							
上 京 區			下 京 區			愛 宕 郡			葛 野 郡			乙 訓 郡			紀 伊 郡							
上 京 區			下 京 區			愛 宕 郡			葛 野 郡			乙 訓 郡			紀 伊 郡							
上 京 區			下 京 區			愛 宕 郡			葛 野 郡			乙 訓 郡			紀 伊 郡							
上 京 區			下 京 區			愛 宕 郡			葛 野 郡			乙 訓 郡			紀 伊 郡							
上 京 區			下 京 區			愛 宕 郡			葛 野 郡			乙 訓 郡			紀 伊 郡							
上 京 區			下 京 區			愛 宕 郡			葛 野 郡			乙 訓 郡			紀 伊 郡							
上 京 區			下 京 區			愛 宕 郡			葛 野 郡			乙 訓 郡			紀 伊 郡							
上 京 區			下 京 區			愛 宕 郡			葛 野 郡			乙 訓 郡			紀 伊 郡							
上 京 區			下 京 區			愛 宕 郡			葛 野 郡			乙 訓 郡			紀 伊 郡							
上 京 區			下 京 區			愛 宕 郡			葛 野 郡			乙 訓 郡			紀 伊 郡							
上 京 區			下 京 區			愛 宕 郡			葛 野 郡			乙 訓 郡			紀 伊 郡							
上 京 區			下 京 區			愛 宕 郡			葛 野 郡			乙 訓 郡			紀 伊 郡							
上 京 區			下 京 區			愛 宕 郡			葛 野 郡			乙 訓 郡			紀 伊 郡							
上 京 區			下 京 區			愛 宕 郡			葛 野 郡			乙 訓 郡			紀 伊 郡							
上 京 區			下 京 區			愛 宕 郡			葛 野 郡			乙 訓 郡			紀 伊 郡							
上 京 區			下 京 區			愛 宕 郡			葛 野 郡			乙 訓 郡			紀 伊 郡							
上 京 區			下 京 區			愛 宕 郡			葛 野 郡			乙 訓 郡			紀 伊 郡							
上 京 區			下 京 區			愛 宕 郡			葛 野 郡			乙 訓 郡			紀 伊 郡							
上 京 區			下 京 區			愛 宕 郡			葛 野 郡			乙 訓 郡			紀 伊 郡							
上 京 區			下 京 區			愛 宕 郡			葛 野 郡			乙 訓 郡			紀 伊 郡							
上 京 區			下 京 區			愛 宕 郡			葛 野 郡			乙 訓 郡			紀 伊 郡							
上 京 區			下 京 區			愛 宕 郡			葛 野 郡			乙 訓 郡			紀 伊 郡							
上 京 區			下 京 區			愛 宕 郡			葛 野 郡			乙 訓 郡			紀 伊 郡							
上 京 區			下 京 區			愛 宕 郡			葛 野 郡			乙 訓 郡			紀 伊 郡							
上 京 區			下 京 區			愛 宕 郡			葛 野													

[illegible]

第十區	第九區	第八區	第七區	第六區	第五區	第四區	第三區	第二區	第一區	兵庫縣	第七區	第六區	第五區	第四區	第三區	第二區
神戶市	神戶市	神戶市	神戶市	神戶市	神戶市	神戶市	神戶市	神戶市	神戶市	兵庫縣	神戶市	神戶市	神戶市	神戶市	神戶市	神戶市
一	一	一	一	一	一	一	一	一	三		一	一	二	一	一	一
人	人	人	人	人	人	人	人	人	人		人	人	人	人	人	人

[illegible][illegible]

[illegible]

[illegible]

宮城縣			長野縣																							
第 二 區	第 一 區	第 十 二 區	第 十 一 區	第 十 區	第 九 區	第 八 區	第 七 區	第 六 區	第 五 區	第 四 區	第 三 區	第 二 區	第 一 區	第 九 區	第 八 區	第 七 區										
宮城臺	仙臺市	下伊那郡	上伊那郡	諏訪郡	北佐久郡	南佐久郡	北安曇郡	南安曇郡	西筑摩郡	東筑摩郡	小縣郡	埴科郡	更級郡	下高井郡	上高井郡	下水内郡	上水内郡	松本市	長野市	吉城郡	益田郡	大野郡	惠那郡	土岐郡	可兒郡	加茂郡
一	一	一	一	一	一	一	二	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	
人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人

[illegible]

秋田縣										福島縣									
第 一 區	第 二 區	第 三 區	第 四 區	第 五 區	第 六 區	第 七 區	第 八 區	第 九 區	第 十 區	第 一 區	第 二 區	第 三 區	第 四 區	第 五 區	第 六 區	第 七 區	第 八 區	第 九 區	第 十 區
秋田	南秋田	山本	北秋田	鹿角	河邊	由利	仙北	平鹿	雄勝	福島	足羽	大野	吉田	今立	坂井				
市	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	市	郡	郡	郡	郡	郡				
一	一	一	一	一	一	一	一	一	二	一	二	二	二	一	一				
人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人				

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

沖繩縣	第 八 區	第 七 區	第 六 區	第 五 區	第 四 區	第 三 區	第 二 區	第 一 區	鹿兒島縣	第 三 區	第 二 區	第 一 區	宮崎縣	第 七 區	第 六 區	第 五 區											
大	噲	始	伊	肝	熊	出	薩	日	川	揖	鹿	鹿	西	東	東	西	北	南	兒	宮	天	球	葦	八	宇	下	上
島	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	宿	兒	兒	白	白	諸	諸	諸	那	湯	崎	草	磨	北	代	土	益	益
一	二	一	二	一	二	一	二	一	一	一	二	二	一	二	二	二	二	二	二	一	二	二	二	二	二	二	二
人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人

第 一 區	那 霸 區	一	人
第 二 區	島 尻 郡	二	人
第 三 區	宮 古 郡	一	人
第 四 區	八 重 山 郡	一	人
第 五 區	首 里 區	一	人
第 六 區	中 頭 郡	一	人
第 七 區	國 頭 郡	一	人
第 八 區	札 幌 區	一	人
第 九 區	小 樽 區	一	人
第 十 區	函 館 區	一	人
第 十一 區	旭 川 區	一	人
第 十二 區	室 蘭 區	一	人
第 十三 區	札 幌 區	一	人
第 十四 區	空 知 區	二	人
第 十五 區	留 萌 區	二	人
第 十六 區	上 川 區	二	人
第 十七 區	宗 谷 區	二	人
第 十八 區	網 走 區	二	人
第 十九 區	根 室 區	二	人
第 二十 區	釧 路 區	二	人
第 二十一 區	河 西 區	一	人
第 二十二 區	浦 河 區	一	人
第 二十三 區	室 蘭 區	一	人
第 二十四 區	函 館 區	一	人
第 二十五 區	檜 山 區	二	人
第 二十六 區	後 志 區	二	人

北 海道 廳

本表ハ次ノ總選舉ヨリ之ヲ施行ス

本法ニ依リ初テ議員ヲ選舉スルニ必要ナル選舉人名簿ニ關シ第十八條乃至第二十條第二十四條第二十六條第二十七條ニ規定スル期日又ハ期間ニ依リ

本法ハ次ノ總選舉ヨリ之ヲ施行ス
本法ニ依リ初テ議員ヲ選舉スルニ必要ナル選舉人名簿ニ關シ第十八條乃至第二十條第二十四條第二十六條第二十七條ニ規定スル期日又ハ期間ニ依リ

本表ハ十年間ハ之ヲ更正セス
附 則

難キトキハ勅令ヲ以テ別ニ其ノ期日又ハ期間ヲ定ム但シ其ノ選舉人名簿ハ次ノ選舉人名簿確定ノ日迄其ノ效力ヲ有ス

〔國務大臣床次竹二郎君演壇ニ登ル〕

○國務大臣(床次竹二郎君) 本案ノ御説明ヲ致シマス、現行衆議院議員選舉法ハ實施後既ニ十有餘年ニナリマシテ、總選舉ヲ致シマスルコト八回以上ニ及ンデ居リマス、其實績ニ徴シマスルニ、當初改正ノ趣旨ヲ十分ニ貫徹イタシテ居ラヌ憾ガアルノミナラズ、時運ノ促ス所、夙ニ其改正ノ必要ヲ認メラレマシテ、是マデモ度々改正案ヲ衆議院ニ於キマシテハ提出ニナッタノデゴザイマスケレドモ、今日マデ適當ノ改正ヲ見ルニ至ラナカッタコトハ、深ク遺憾ト致ス所デゴザイマス、此度時勢ノ趨ク所ニ鑑ミ、立憲政治ノ運用ヲ完ウ致シタイ考ヨリ致シマシテ、茲ニ改正ヲ企テタ次第デゴザイマス、其重モナル點ヲ是ヨリ申上ゲマスレバ、第一ハ議員數ノ増加デゴザイマス、現在三百八十一名デゴザイマス、現行法ノ制定セラレテ以來、三万以上ノ人口ヲ有シマシテ市トナリマシタモノガ二十二ニナツテ居リマス、是等ノ市ハ従前ノ例ニ依リマシテ之ヲ獨立選舉區ト認メルコトニ致シマシテ、此爲ニ議員數ヲ増加イタシマスルモノ二十二名デゴザイマス、次ニハ人口ノ増加ニ因ツテ議員ノ増加ヲ必要ト致シマス、現行法ニ於テ議員配當ノ方法ハ人口十三万ニ付テ一人、其算出方ハ四捨五入ノ法ヲ採ツテ居リマス、此度モ此標準竝ニ算出法ヲ襲フコトハ最モ穩當ナリト考ヘマシタノデゴザイマス、其結果議員ノ増加ヲ致スモノ六十一名デゴザイマス、之ヲ市區ノ特別選舉區増設ノ爲ニ増加イタシマスル二十二名ト合セマスレバ、八十三名ノ増加ニナリマシテ、即チ現在ノ三百八十一人ハ、増シテ四百六十四人トナル次第デゴザイマス、次ニ選舉權ノ擴張デゴザイマス、唯今ハ御承知ノ如ク直接國稅年額十圓以上ヲ納ムル者ヲ以テ選舉資格者ト致シテゴザイマス、今日ノ時勢ニ於キマシテハ多少此選舉權ノ擴張ヲ致スト云フコトハ、己ムヲ得ザル時代ノ要求デアルト考ヘマス、人心ヲ安定セシムル上ニ於テモ必要ナル事柄ト考ヘマス、ソレ故ニ幾分ノ擴張ヲ致スト云フコトハ己ムヲ得ナイ次第デアリマスガ、唯其程度ヲ幾何ニ致スカト云フコトガ茲ニ攻究ヲ要スル點デゴザイマス、現在ノ法律ニ於キマシテハ單リ衆議院議員ノ選舉法ノミナラズ、地方議會ノ議員ノ選舉ニ於キマシテモ、總テ納稅ヲ以テ選舉資格ノ要件ト致シテゴザイマス、蓋シ此納稅額ヲ以テ選舉資格ノ要件ト致シマスルコトハ、最モ適當ニシテ穩當ナル事柄

ト考ヘルノデアリマス、ソレ故ニ此度ノ改正ニ當リマシテモ此標準ヲ採用イタシテ、唯其程度ヲ引下ゲルト云フコトガ、最モ穩當ナル方法デアラウト考ヘマシタノデゴザイマス、ソレ故ニ或ハ世ノ中ニハ知識階級ヲ新ニ加ヘル、若クハ兵役ノ義務終了者ヲ加ヘル、若ハ進ンデ普通選舉ヲ唱ヘル議論モゴザイマスルガ、前申上ゲル通りノ次第ニ依ツテ

〔副議長侯爵黑田長成君議長席ニ著ク〕

當局ニ於テハ現行法通りノ標準ヲ襲フコトヲ以テ可ナリト致シタ次第デゴザイマス、而シテ稅額ヲ五圓ニ下ゲルカ、或ハ七圓ニ下ゲルカ、若クハ三圓ニ下ゲルカ、若クハ二圓ニ下ゲルカ、是ハ自ラ程度ノ議論デゴザイマスルガ、三圓ニ引下ゲマスレバ現在百四十有餘万ノ有權者ガ増シテ二百八十六万人ニナル譯デゴザイマス、是ハ今日ノ約倍數ニ擴張イタスコトニナルノデゴザイマス、而シテ此三圓ト云フ高ハ恰モ府縣會議員ノ選舉資格ニ相當イタスコトデゴザイマス、旁、此高ヲ以テ改正ノ納稅額ニ致スト云フコトガ穩當デアラウト考ヘタ次第デアリマス、或ハ之ヲ二圓マデ引下ゲル說モゴザイマス、二圓マデ引下ゲマスレバ、此上尙ホ約五十万ノ有權者ヲ増スコトニナリマス、其數ニ於テハ甚シイ差ガアルト云フ譯デモゴザイマセヌガ、免モ角現在ノ縣會議員ノ選舉者ガ三圓以上デアリマスル今日ニ於キマシテハ、先ヅ衆議院ノ選舉權者モ其所マデ引下ゲルト云フコトハ極メテ實際ニ適ウタ改正デアルト考ヘマシタ次第デアリマス、或ハ智識階級者ヲ加ヘテ選舉界ニ新シイ分子ヲ加ヘルコトガ宜シイト云フ議論モゴザイマス、併ナガラ智識階級ト單ニ申シマスルコトハ、此中學校卒業以上ノ學力ヲ有スル智識階級ト申シマスル事柄ハ、第一明瞭ヲ實際ニ於テ缺イテ居リマス、選舉ノ資格ノ如キハ極メテ明確ニ規定スベキモノト考ヘルノデアリマス

〔議長公爵徳川家達君議長席ニ復ス〕

ソレカラ世ノ中ニ處シテ相當ノ經驗ヲ有チ政治上ノ判斷力ヲ有スル者ハ、必シモ中學ノ卒業生ノミニハ限リマセヌ、苟クモ義務教育ヲ卒ヘ、相當世ノ經驗ヲ經タ者デアリマスルナラバ、是等ノ所謂知識階級者ト少クトモ同等若クハソレ以上ノ人ハ國民ノ中ニ多クノ數ヲ占メテ居ルト考ヘマス、然ルニ選舉權ヲ與フルニ單ニ中學ノ卒業者デアルヤ否ヤト云フコトノミニ依ツテ判斷ヲ下スコトハ、甚シキ不公平ナル結果ヲ見ルモノト考ヘルノデアリマス、極メテ公平ニシテ極メテ又明確ナル新ナル標準デアリマスナラバ、在來ノ立法標準

ヲ此際改メルト云フコトモ敢テ拒ムベキデハアリマセヌガ、今申上ゲルヤウナ考ヨリシテ此改正案ニ於テハ知識階級ヲ加ヘルコトニ致シマセヌノデアリマス、又之ヲ實際ノ數字ノ上カラ申上ゲマスレバ、中學卒業者ト云フ者ハ全國ニ於テ五十万人以上デゴザイマス、此内納稅額三圓以上ニ當ル者ガ十五萬人、年齡二十五歳ニ達セザルモノガ二十万人ゴザイマス、サウ致シマスルト云フト、殘ル所ノ十八万人ガ此度ノ改正案ニ加ハルハラヌノ問題ニナルノデアリマシテ、其數ノ上カラ申上ゲマシテモ、特ニ是等ノ人々ノ爲ニ、前申上ゲマシタ考慮スベキ點アルニ拘ラズ、此際強テ認メナケレバナラヌ必要モ無イト考ヘタ次第デゴザイマス、兵役ノ義務ヲ了ヘタ者、若クハ普通選舉ノ論ノ如キハ、殊更此處デ申上ゲル必要モアルマイト考ヘマス、尙ホ此選舉權ノ所ニ於キマシテ、現行法ニ於テハ納稅ノ年限ハ、地租ハ一年、其他ノ直接國稅ハ二年間引續キ納付スルコトヲ要スル次第ニナツテ居リマスルガ、強テ地租ト其他ノ直接國稅トヲ區別スル必要モナイト考ヘマシテ、地租ト同ジク一年ト云フコトニ短縮イタシマシタ、ソレカラ現行法ニ於キマシテハ、選舉權者ノ其選舉區内ニ住所ヲ有スル期間ヲ、一年ト致シテゴザイマスルガ、是ハ六箇月ニ此度短縮イタシマシタ、此事柄ハ納稅ノ資格ト共ニ、今日マデハ名簿調製後ニ於テモ引續イテ其資格ヲ具ヘルコトヲ要シテゴザイマスルガ、此度ノ改正ニ於キマシテハ、名簿調製後ノ異動ハ間ハヌコトニ致シマシタ、是ハ取扱上ノ便宜、主トシテ左様ニ改正ヲ致シタ次第デアリマス、次ニ重ナル點ハ所謂選舉區制度ノ改正デゴザイマス、唯今ハ一府縣ヲ以テ一選舉區ト致シテゴザリマスルガ、此度ハ一區一人ト云フコトニ大體ノ方針ヲ採リマシテ議員ノ配當ヲ致シマシタ、曩ニ小選舉區ニナツテ居リマシタノヲ、現行ノ法ノ如ク大選舉區制度ニ改メラレマシタ當時ノ理由ヲ取調ベテ見マスルニ、小選舉區デハ一府縣内ヲ通ジテ名望ノアル所謂大人物ト申シマスルカ、其選出ニ小選舉區デハ不便デアルト云フ、黨派ノ勢力ニ正比例ヲシテ議員ヲ選出スルコトガ出來ナイト云フノガ一ツト、小選舉區デアリマスレバ選舉ガ激烈デアリ、賄賂ナリ暴行、脅迫等ノ弊ガ甚シイ、此三點ガ曩ノ小選舉區ヲ現行ノ大選舉區ニ改メラレタ理由デゴザイマス、然ルニ之ヲ今日ノ實況カラ申シマスルニ、必シモ今日ノ制度ハ其目的ヲ達シテ居ラヌヤウニ考ヘマスルノミナラズ、今日我國ノ選舉界ニハ種々ノ弊害モ起ツテ居リマス、又曩ノ選舉區ノ時代ト今日トハ民知ノ程度モ大ニ相異ガゴザイマスル、彼レ此レ此ニ區制ヲ改正イタシマシテ、新ナル

企ヲ致シテ、選舉界ノ廓清ヲ免モ角モ圖ルト云フコトハ、最も必要ナルコトト考ヘタ次第デゴザイマス、現在ニ於テ最も選舉界ニ立ツ者ノ憂ト致シマスル所ヲ、茲ニ數點ヲ舉ゲテ説明ヲ申上ゲマスレバ、第一ハ選舉運動費ノ最も多イコトデゴザイマス、今日選舉界ニ立チマスル者、先ヅ頭ヲ悩スノハ此點デゴザイマス、ドウカ如何ニ致シマスレバ此選舉費ノ減少ヲ圖ルコトガ出來マスルカ、イロイロ方法モゴザイマスルカ知レマセヌガ、兎モ角區制ヲ改メルト云フコトガ其第一デアルト考ヘルノデアリマス、區域ノ大ナルヨリモ區域ノ小ナルコトハ、差向キ通信費ノミヲ申シマシテモ、明ニ小選舉區ノ方が費用ヲ要セスノデゴザイマス、殊ニ小選舉區ニナリマスレバ、無競争ノ選舉區モ尠カラスコトト考ヘマス、無用ノ競争モ從ツテ省クコトガ出來ルノデアリマス、要スルニ選舉費ノ減少ヲ圖ル點ニ於テハ、小選舉區ハ確ニ有利ナリト信ズルノデアリマス、殊ニ此度ノ改正案ニ於キマシテ選舉有權者ノ數ヲ倍加イタシマシタ以上、殊更此ニ區制ヲ改メルト云フコトハ其必要アリト考ヘマス、次ニ今日我々選舉界ニ立ツテ最も遺憾ト致シマスル點ハ、單リ同ジ黨派ノ人ノミナラズ、黨派ヲ異ニ致シテモ政見ヲ同ジウスル同志ノ者ガ、互ニ相擊ツテ同十討ヲ致スト云フコトハ、甚ダ政治道德上カラ考ヘマシテ面白クナイ事柄デゴザイマス、又其實際カラ申シマスルト云フト、最も投票ノ奪合ヒ、モウ一ツ語ヲ換ヘテ申セバ、投票ノ買収デモ致スト云フコトハ、同士討ノ行ハレル所ニ於テ最も行ハレ易イノデゴザイマス、小選舉區ニ致シマスレバ、此弊ハ餘ホド省クコトガ出來ルト考ヘマス、殊ニ大選舉區ニ於テ同士相擊ツ現象ノアリマスルコトハ、一方ニ於テ選舉ノ結果ヲシテ甚ダ不公平ナラシムルコトガ往々ゴザリマスル、即チ一人ノ同士ガ過剰ノ投票ヲ集メマスレバ、他ノ同士ハソレガ爲ニ落選ヲ致サナケレバナラヌト云フコトニナリマス、例ヘバ一地方ニ於テ四分六分ノ勢力ノアル所ニ、其六分ノ勢力ヲ有ツテ居ル黨派ノ中カラ一人ノ極メテ人望ノアル者ガ出テ、此人ノ投票ガ過剰ニ集マルコトニナレバ、六人選出シ得ルカラ有ツテ居ルニ拘ラズ、或ハ二人若クハ三人シカ選出スルコトノ出來ナイト云フヤウナコトガ往々アルノデアリマス、此弊ヲ防グニハ候補者ノ立テ方ニ注意ヲスレバ防ゲルデハナイカト云フ說モアリマス、確ニ候補者ノ立テ方如何ニ依ツテハ幾分其弊ヲ矯正スルコトガ出來得ナイデモアリマセヌガ、如何ニ巧ニ立テマシテモ自由自在ニ一府縣内ヲ驅廻ツテ得票ヲ爭フノデアリマスカラ、到底此弊ハ防グコトガ出來ナイノデゴザイマス、先ホド曩ノ小選舉

區制度ヲ現行ノ大選舉區ノ制度ニ改メル所ノ理由ノ一ツトシテ、小選舉區デハ黨派ノ勢力ニ比例シテ選舉ガ出來ナイカラ大選舉區ニ改メルト云フノモノツノ理由デアッタノデアリマスガ、今申上ゲルヤウナ點カラ申シマスレバ、却ッテ大選舉區ハ黨派ノ勢力ニ比例シ得ナイト云フ茲ニ事實ヲ見ルノデアリマス、然ルニ大選舉區デアレバ多數黨、少數黨ヲ比例的ニ選出シ得ル、小選舉區ニナレバ其事ガ出來ナイト云フ議論ガアルノデアリマスルケレドモ、今申上ゲマス其事柄ノ如キハ、確ニ其反對ノコトヲ證明スルノデアリマス、要スルニ若シ勢力ニ正比例ニ議員ヲ選出セムト致シマシタナラバ、學者ノ唱ヘル所ノ比例選舉法ヲ採用イタシマシタナラバ、其事ガ目的ヲ達セラル、ノデアリマセウ、去リナガラ此比例選舉制度ナルモノハ、其實行容易ナラザルモノデアッテ、我國ノ如キ今日ノ實狀ニ於テハ施行甚ダ困難デアルト考ヘマス、既ニ現在ノ大選舉區制度ニ於テ正比例的ニ勢力ヲ選出スルコトガ出來ナイト申ス以上、必シモ大選舉區ハ少數代表ニ都合ガ宜イカラ之ヲ維持シナケレバナラヌト云フコトハ、何所マデモ強イ理由トハ見ルコトガ出來マセヌ、又之ヲ我國ノ選舉界ノ實狀カラ申上ゲマスレバ、各黨派ノ勢力ナルモノハ其府縣ヲ通ジテ必シモ平等ニ分布サレテ居ルモノデアリマセヌ、黨派ノ勢力ハ全縣ヲ通ジテ其局部部ニ甚ダ不平等ニ分布サレテ居ルノガ今日ノ實際デゴザイマス、ソレ故ニ之ヲ小選舉區ニ改メマシタ所デ、必シモ少數黨ニ有利ナラズト申ス譯ニハ參リマセヌ、多數黨常ニ有利ナリト申ス譯ニモ參リマセヌ、今日ノ實際ノ狀況カラ申スニ、大小選舉區ヲ比較シテ明ニ大選舉區ガ少數代表ニ宜シイト云フコトハ、事實ノ上ニ斷定ハ出來ナイト考ヘルノデアリマス、殊ニ大選舉區ノ制度ニ於キマシテ我々ガ最モ苦シム所ハ補闕選舉ノ煩累デゴザリマス、昨年ノ如キハ八回ニモ及ンデ居リマス、其度毎ニ一府縣ヲ通ジテ競争ヲ致シ、莫大ナル選舉費ヲ要スルコトデアリマス、茲ニ小選舉區制度ニ改メマスレバ、此費用ト手數トヲ省キ得ルコトガ出來ルノミナラズ、大選舉區ニ於テハ已ムテ得ズ補充員制度ヲ採ル必要モアラウト思ヒマスケレドモ、大選舉區ニ於キマシテハ其時ニ選舉ヲ致シテ、所謂眞實ニ民意ヲ常ニ代表セシムルト云フコトガ適切ニ出來ルノデアリマス、之ヲ選舉ノ取締ノ點カラモ、選舉ノ公正ヲ維持スルト言フ點カラ申シマスルモ、私ハ小選舉區ノ方ハ大選舉區ヨリハ優ッテ居ルト考ヘマス、先キニモ申上ゲマシタ如ク無競争ノ選舉モ尠カラズ生ズルコトト考ヘマス、從ッテ選舉ノ取締上ニハ小選舉區ノ方ガヨリ多ク力

ヲ用フルコトガ出來マス、取締ヲ嚴密ニシ其公正ヲ保ツコトハ小選舉區ヲ以テ優レリト申シテ宜シイト思ヒマス、小選舉區ニナリマスレバ取締ノ仕宜イ其裏面ニ於テハ、干涉ガ出來易イデハナイカト云フ、直チニ茲ニ議論ガ起ッテ來ルノデゴザリマスルガ、此點ニ於テハ私ハ斯様ニ考ヘマス、選舉干涉ナルモノハ元々當局官吏ノ不心得ヨリ起ルコトデアリマス、不心得ナル官吏ガ居ッテ強テ干涉ヲ致サムト試ミマスレバ、敢テ選舉區ノ大小ハ妨ニハナラヌデアリマス、是ハ曩ノ小選舉區時代、今日ノ大選舉區時代、時代モ違ッテハ居リマスルガ、二十五年ノ大干涉、又大選舉區ニナッタ時ノ干涉ヲ比較イタシテ、確ニ選舉區ノ大小ハ選舉干涉ノ容易ナルヤ否ヤニハ關係ノ無イト云フコトハ明デゴザイマス、況ヤ又選舉區ガ小ニナリマスレバ、其選舉區民ト選出議員トノ間ハ大選舉區ヨリモ、ヨリ以上ニ密接ナル關係ヲ生ジマスル、自己ノ選出セムトスル候補者ノ人格政見等ヲ、ヨリ能ク了解スルコトガ出來マス、即チ選舉民ハ其人格、其政見ノ爲ニ、ヨリ多ク投票スルノデアリマシテ、金ヤ情實ノ爲ニ誘引サレルト言フコトハ、割合ニ少クナルト考ヘルノデアリマス、即チ選舉區ノ小ナルダケ議員候補者ノ、茲ニ地盤ト言フ言葉ヲ使ヒマスナラバ、地盤、其立脚地ガ固クナルノデアリマス、其立脚地ガ固イダケ選出セラレタ議員ハ自己ノ所信ニ向ッテ忠實ニ論議シ得ルノミナラズ、一旦解散ニ臨ンデモ、其立脚地ノ鞏固ナルダケ干涉ヲ受クルコトハ少イノデアリマス、干涉ヲ受マシテモ當選ノ餘地ハ大選舉區ヨリハ多イノデゴザリマスル、此點ニ付キマシテモ、議員ト選舉民ト密接ナルダケ、ソレダケ賄賂ガ行ハレ易クハナイカ、請託ガ行ハレ易クハナイカト云フ議論モ直チニ起ルノデアリマスケレドモ、是、即チ曩ノ小選舉區ヲ大選舉區ニ改メラレタ理由ノ一ツニナッテ居ルノデアリマスガ、賄賂ナリ暴行、脅迫ナリト云フヤウナコトハ、曩ノ小選舉區時代ノ數字ヲ舉ゲテ今日議論スルト云フコトハ、既ニ時代ノ進歩ヲ考ヘナイ議論デアルト考ヘマス、今日小選舉區制度ヲ實行セラレマシテモ、曩ノ日ノ選舉區制度ノ下ニ現ハレタ如キ暴行脅迫ハ必ズ多クアルマイト見ルノデアリマス、寧ロ今日ハ左様ナル露骨ナ事ヨリモ、アリト致シマスレバ隠レタル所ノ運動ガ行ハレルノデアリマス、其隠レタ運動ト申セバ投票ノ買収ニナリマス、投票ノ買収ハ何レガ最モ仕易イカト云ヘバ、先カラ段々申上ゲル如ク、寧ロ其區域ノ廣漠ナル方ガ行ハレ易イト思フノデアリマス、又其點ニ於テハ議員ト選舉民ト密接デアルト云フコトハ、議員ヲシテ眞面目ナル行動ヲ執ラシメ

ルト云フコトニ於テモ利益ガアルト考ヘマス、又地方ノ利害ヲ代表スルト云フコトガ必シモ惡シイ事デハナイノデ、寧ロ各地方各地方ノ民情ヲ能ク中央ノ議會ニ移シ得ルト云フコトハ、是亦決シテ捨ツベキコトデナイ、寧ロ宜シイコトト私共ハ考ヘマス、先ニモ申上ゲマス如ク大選舉區デアレバ同士討ノ行ハレル弊ガアル、又小選舉區デアレバ議員ト選舉民ト密接ナル關係ガアル、此事柄ハ一方カラ申シマスレバ、選舉民ノ政治思想ヲ發達セシムル上ニ於テハ最モ宜シキ事柄ト考ヘマス、大選舉區ニ於テ互ニ相討チ、若クハ己ノ選出セムトスル所ノ投票ガ如何ニナルヤモ的確ニ分ラナイ、大選舉區ニ於ケルヨリハ能ク政治上ノ議論ヲ徹底セシメ、自己ノ投票シタル者ハ勝ツカ、敗ケルカ、明白ニ小選舉區ノ方ナラ分ルノデアリマス、茲ニ於テ選舉民ノ政治思想ヲ進メルト云フコトガ、大選舉區ヨリハ能ク出來ルト考ヘマス、今日立憲政治ヲ進メテ行カウト云フニハ、申スマデモナク、色々手段ヲ盡サナケレバナリマセヌガ、最モ選舉民ノ政治思想ヲ發達セシムルト云フコトニ考慮ヲ費スト云フコトガ必要ナル事柄ト考ヘマス、又今日ノ時勢ニ於キマシテ私共ハ政黨ナルモノハ既ニ善カレ惡シカレ存在シテ取除クベカラザルモノデアアル以上ハ、之ヲシテ成ルベク善良ナル發達ヲ遂ゲシムルト云フコトハ、政治ヲ進メル所以デアアルト考ヘマスガ、其點カラ申シマスルナラバ、同士相討ツト云フヤウナ事柄ハ、決シテ政黨ヲ進メル所以デゴザリマセヌ政黨ノ善良ナル發達ヲ圖ルニハ、小選舉區ノ方宜シイト考ヘルノデゴザリマスルガ、唯政黨ト申シマスレバ、如何ニモ政黨ノ下ニ選舉法ヲ改正スルカ何ト云フヤウナ衆議院ニ於テハ質問モ出タノデアリマスルガ、政黨ノ爲ニ便利ニナルヤウニ選舉法ヲ改正スルト云フコトハ、斷ジテ出來ナイコトデゴザリマスルガ、選舉法ノ改正ヲ致シテ、ソレガ政黨ノ發達ニモ都合ノ好イト云フコトハ、是亦考慮シナケレバナラヌ事柄ト思フタノデアリマス、尙ホ今日ノ實際カラ申上ゲマスレバ、我々今日選舉場裡ニ立チマスル時分ニハ、決シテ漠然ト一府縣内ヲ通ジテ選舉ヲ爭フト云フ譯デハゴザリマセヌ、多クハドコソドコソ郡ヲ以テ先ヅ其所ヲ根據地トシテ、ソレヲ本トシテ候補ヲ爭フト云フノガ今日ノ實況デゴザリマス、即チ此事柄タルヤ、大選舉區ノ下ニ於テ其實ハ選舉ノ必要ヨリシテ、私設選舉區ナルモノカ自ラ生ジタノデアアルト、斯様ニ斷定シテ宜シイト思ヒマス、然ラバ凡ソ法ヲ立テムト欲スル者ハ、時ノ實情ニ應ジテ能ク之ヲ利導スルト云フコトヲ考ヘルコトガ最モ然ルベキ次第ト思ヒマス

ル、而モ大選舉區ノ下ニ在リマシテハ、私設選舉區ヲ銘々設ケテ居リマスルガ、此私設選舉區ヲ設ケテ居リマシテモ、爭ハ全縣ニ互ッテ居ルモノデアリマス、私設選舉區ヲ設ケナガラ其利ヲ十分ニ收メルコトガ出來ナイノデアリマス、寧ロ之ヲ實際ニ應ジテ小選舉區ニ致シ、其小選舉區ノ利ヲ十分ニ收メルト云フコトガ、事實ニ於テ適切ニ處シテ行ク所以デアアルト考ヘマスノデアリマス、色々此制度ニ付テ議論ヲ致シマスレバ難多ニナリマスガ、先ヅ大體以上申上ゲマシタルヤウナ點ヲ考慮イタシテ、今日ノ選舉界ニ幾分デモ改善ヲ加ヘムト欲スルナラバ、先ヅ此制度ヲ改正スルヨリ外致方ナイト考ヘマスル次第デゴザリマス、次ニ此選舉區制度ヲ改正イタシマスルニ付テ、自ラ別表ノ改正ヲ致サナケレバナリマセヌ、其別表ノ改正即チ議員ノ配當方法デゴザリマスルガ、之ニ付テハ出來得ルダケ一區一人ノ選舉區ニ致シタイト云フコトヲ原則ト致シテ、而シテ人口ハ成ルベク十三万ニ近イ所ヲ以テ議員一人ヲ出ス、選舉區ノ區劃ハ出來得ル限り郡ノ區域ニ依リタイ、郡ノ區域ニ依ルコトガ出來ナケレバ二郡若クハ三郡、若クハ四郡ヲ合シテ一選舉區トスル、郡ヲ分割スルコトハ致サヌ、斯ウ言フノガ一ツ、自然郡ヲ合スルコトニナリマスレバ、地勢、交通等ヲ參酌イタシテ、一方ニ於テハ人口十三万ノ標準ニ成ルベク遠カラヌコトヲ圖リマシテ、茲ニ選舉區ヲ區劃イタシマシタ、其結果大體ニ於テ人口十萬ヨリ十八万ノ程度ニ於キマシテ、一人一區ト云フ選舉區ヲ造ッタ次第デゴザリマスルガ、已ムヲ得ズ前申上ゲマシタ人口、郡ノ行政區劃、地勢、交通ト云フヤウナ色々標準カラ、已ムヲ得ズ人口十九萬臺ノモノ五區、人口九萬臺ノモノ十二區ヲ造ルコトニナリマシテ、其結果ハ茲ニ二人若クハ三人區ト云フモノガ八十程出來マシタ、其他ノモノハ總テ一人一區ト云フコトニナリマシタ、此區劃ノ制定ニ付テハ最モ議論モ惹起シ易イコトデゴザリマスル、此區劃ヲ爲スニ當ッテ、或ハ黨ノ事情、利害得失等ニ鑑ミルコトガアリマシタナラバ、甚ダ不公平ナル分ケ方ニナルノデゴザリマス、ソレ故當局ト致シマシテハ、最モ注意ヲ拂ヒマシタ積リデアリマスル、所謂人口十三万ヲ中心トシ、ソレニ郡ノ行政區劃、地勢、交通、是等ノ何等血モ涙モナイ所ノモノヲ條件ト致シテ、之ニ依ッテ相當安排、區劃ヲ致スヤウニソレト主任ノ者ニ命ジテ、茲ニ出來上ッタノガ即チ此案デアリマシテ、或ハ衆議院ニ於キマシテハ、選舉ノ事情ニ通ゼザル屬僚共ガ斯ノ如キ區劃ヲ拵ヘルト云フコトハ、甚ダ不當ナル事柄デハナイカト云フ議論モアリマシタヤウ

ナコトデアリマスルガ、私ハ選舉ノ事情ニ通ゼザル所ノ者ガ何等血モ涙モナイ、玆ニ數字ナリ、區劃ナリ、地形ナリト云フヤウナモノニ依ッテ區劃ヲ致スト云フコトガ、即チ公平ナル所以デアルト申シタヤウナ次第デゴザイマス、固ヨリ多クノ區ノ中デゴザイマスルカラ、萬遺算ナイト云フコトハ申上ゲラレマセス、無イトハ申上ゲラレマセスガ、併ナガラ免ニ角其精神ニ於テハ、何所マデモ公平ナルコトヲ欲シテ區劃イタシタヤウナ次第デゴザイマス、此點ニ於テ若シ一點御疑ヲ招クヤウナコトガアリマスレバ、全部極メテ嚴密ナル御審査ヲ經ナケレバ、到底御協賛ヲ得難イト考ヘルノデアリマス、併ナガラ私ハ今申上ゲマシタルヤウナコトデ、事情ヲ知ラザルガ即チ公平ナル所以デアルト考ヘテ、玆ニ區劃表ヲ作ッタ次第デゴザイマス、此點ハドウカ深ク御諒承ヲ願ヒタウゴザイマス、而シテ此政府ノ原案ニ對シテ衆議院ニ於テ修正ヲ致シマシタ、本文ノ中ニ修正イタシタ箇條ハ數點デゴザイマスルガ、其重ナルモノハ請負……政府ノ請負事業ヲ爲ス者ノ資格ヲ此度細規イタシマシタ、細カク規定スルコトニ致シマシタ、中ニ會社ノ「發起人」ト云フ者ガゴザイマシタ所、發起人ハ會社ノ成立シタ以上ハ無クナルノデアアルカラ、斯ノ如キ者ヲモ尙ホ被選舉權ヲ與ヘスト云フコトハ穩當ナラヌデハナイカト云フ議論ノ結果、衆議院ニ於テ是ハ削除イタサレマシタ、ソレカラ現行法ニ於テハ投票ヲ開キマスルノハ、各郡市毎ニ投票ヲ開クコトニナッテ居リマス、然ルニ此度ノ原案ニ於キマシテハ、選舉區ヲ小選舉區ト致シマシタ結果、選舉區毎ニ開票ヲ致シ、選舉會ヲ開ク、斯ウ云フコトニ致シタノデアリマス、然ルニ數郡ヲ合シテ一選舉區ニ致シマス所デハ、現行法ノ如キ郡、市ヲ以テ郡市別ニ開票ヲ致スト云フコトハ、實際ニ於テ便宜デアアルノデゴザリマスルカラ、是ハ衆議院ガ左様ニ修正ヲ致サレマシタ、モウ一ツハ官吏ノ選舉ニ關スル行動ニ付テ罰則ノ規定ヲ加ヘラレタノデアリマス、其他ハ多ク文字上ノ修正デゴザリマス、申上ゲマスル如ク何レモ穩當ナル修正ト考ヘマシテ、此修正ニハ同意ヲ致シマシタ、尙ホ一箇條衆議院ニ於テ別表ノ中ニ修正ニナッタノデアリマス、ソレハ山梨縣ノ政府ノ原案第二區デゴザリマスルガ、政府ノ原案ニ於マシテハ、西山梨、東山梨、北巨摩、中巨摩此四郡ヲ合シテ二人一區ニ致シテゴザリマス、然ルニ衆議院ニ於テ成ルベク東西山梨ノ兩郡ヲ一區ト致シ、北中巨摩兩郡ヲ一區ト致シマシテ、二人一區トシタ政府ノ原案ヲ各、一人一區ニ修正ニナッタノデゴザリマス、之ニ對シテ當局ト致シマシテハ原案ヲ

是ナルモノト信ズルト云フコトニ答ヘマシタ、併ナガラ多數ニ於テ修正セラ、ト云フコトデアレバ、強テ反對スル譯ニモ行カスト申シタノデゴザリマス、他ノ修正ニハ進ンデ同意ヲ致シマシタガ、此點ニ付テハ右様ナ答辯ヲ實ハ致シマシタ、致シマシタガ政府ガ此原案ヲ以テ是ナリト申シマスルコトハ、先程申上ゲマシタ如ク人口ニ鑑ミ地形ニ鑑ミ、サウシテ作ッタノデアリマス、即チ此山梨ノ第二區ノ如キハ四郡ヲ合シテ人口二十六萬五千デゴザイマス、ソレデ二人ノ定員デゴザリマスカラ、人口カラ申セバ恰モ一人十三萬人ニ當ッテ居リマス、尙ホ此政府ノ原案ハ四十五年ノ政府案ニ於テモ同様ナコトニナッテ居リマス、然ル所衆議院ノ修正ノ通りニナリマスレバ、東西山梨兩郡ヲ合併シテ人口九萬八千デ、北中巨摩兩郡ヲ合シテ人口十六萬七千、一方ハ九萬八千、一方ハ十六萬七千、各、一人ノ議員ヲ出スト云フコトデアリマス、人口ノ上カラ申シマスレバ修正案ノ方ハ宜シクナイノデアリマス、政府案ノ方ガ公平デゴザリマス、之ヲ地形ノ上カラ申シマスレバ、何レカト申セバ修正案ノ方ガ宜シウゴザイマス、東西山梨、北中巨摩兩郡共ニ各、川ヲ挾ンデ一地形ヲ成シテ居ル所デゴザイマスルカラ、此點ハ修正案ノ方ガ宜シウゴザイマス、町村ノ數モ甚ダ多イノデアリマシテ、是ハ此點カラ申セバ修正案ノ方ガ寧ロ宜シウゴザイマス、ソレカラ又出來得ルダケ一區一人ノ制度ヲ採ルト云フコトカラ申セバ、修正案ノ方ハ意義ガ徹底イタシテ居ルノデアリマス、山梨ノ全體ヲ申上ゲマスレバ、政府ノ原案ハ二區ハ二十六萬人デ二人ノ議員、三區ハ十六萬人デ一人ノ議員、四區ハ十二萬四千人デ一人ノ議員、此度北中巨摩ヲ分割イタシマシタ所デ、十六萬七千人ニ付テ一人ノ議員デゴザリマスカラ、山梨縣全體ヲ通觀イタシマシテ、此修正必シモ不可ナリト申ス次第デゴザイマセス、而モ此別表ノ如キハ、政府ハ前申上ゲマスルヤウナ考ヲ以テ區劃イタシマシタノデ、何處マデモ大體カラ申セバ政府ノ方ガ宜イト考ヘマスケレドモ、又衆議院ノ此修正必シモ其意義ナキニアラズ、却ッテ政府案ヨリ或點ニ於テハ優ル所モゴザリマス、唯斯ウ云フ區劃ヲ一々舉ゲテ各、自己ノ爲ニ利ナラムト欲スル眼ヨリシテ論評イタシマスレバ、各區各、皆議論ヲスルコトガ出來ルダラウト考ヘマス、此修正モ其裏面ニ立入ッテ玆デ申上ゲマスレバ、修正ノ結果ハ政友會ノ方ガ有利デアアルノデゴザリマス、政府ハ左様ニ考ヘマス、併ナガラ此點ニ付テハ、先キニ此改正案ガ新聞ニ出マシタ時分ニ、憲政會側ノ安達謙藏君、選舉ニ最モ通ジタ人デアリマス、此人ガ原案ニ對シテ非難ヲ

加ヘテ居リマス、其非難ノ一箇條ノ中ニ不公平ノ實例トシテ即チ此山梨縣ノ、今申上ゲタ區ガ舉ゲテアリマス、ソレニ依リマスレバ「山梨縣ノ第二區ノ西山梨、東山梨、北巨摩、中巨摩四郡ヲ一選舉區ニ名トセルハ、此内中巨摩ノミヲ中堅トセル憲政會ヲ打破シ、政友會ヨリ二名ヲ出ダサムトスル魂膽ナリ」憲政會側カラ見マスレバ、左様ニ見ラレルカモ知レマセヌガ、却ッテ共同ジ事ヲ以テ政友會ニ利ナリトシテ、是ハ政友會カラノ修正案デハアリマセヌガ、之ニ賛成シテ成立ッテ居リマス、デ各、自己ノ見ル所ニ依ッテ、自己ノ都合ノ宜カラムコトヲ欲シテ、一々別表ニ論議ヲ致シマシタナラバ、實ニ日モ亦足ラスト申シテ宜シイ次第デゴザリマス、私ハ左様デゴザリマスカラ、却ッテ選舉ノ事情ニ通ゼザル者ヲシテ一定ノ條件ヲ示シテ、其下ニ區劃ヲ致サセマシタヤウナ次第デゴザリマスルノデ、原案ヲ以テ是ナリト信ジマスケレドモ、併シ此修正ニ付テハ今申上ゲマスル如ク、十分ナル理由モアルト認メテ宜カラウト考ヘマス、其政友會ニ利ナルヤ、憲政會ニ利ナルヤ、勝手ニ議論ヲ雙方カラ致シテ居ルモノト見テ宜カラウト考ヘルノデアリマス、要スルニ當局者ト致シマシテハ、大體……幸ニ御協賛ヲ得マスルト云フコトデゴザリマスルナラバ、議論ハ何レニテモ爲シ得ル、僅カ一點ノ事ニ付テ彼レ此レ申スト云フコトハ欲シマセヌ、デ寧ロ大體ヨリ見マシテ甚シイ不都合ガナイナラバ、幸ニ御協賛ヲ得ルト云フコトデアレバ誠ニ仕合セニ考ヘマス

○議長(公爵徳川家達君) 是ヨリ通告順ニ依リマシテ質問ヲ許シマス、山脇玄君

「山脇玄君演壇ニ登ル」

○山脇玄君 私ハ選舉法改正案ニ付キマシテ、二三政府當局ニ伺ヒタイノデアリマス、其質問ノ趣意ヲ明ニスル爲ニ聊カ理由ヲ述ベタウゴザリマスカラ、暫時時間ヲ御與ヘ下サルヤウニ願ヒマス、デ質問ニ移リマス前ニ當局ニ御願ヒ致シタイノハ、此案ニ付キマシテ統計ナリ色々材料ガ印刷ニナッタモノガアラウト存ジマスレバ、ドウカ我々ニモ汎ク御配付ニナラムコトヲ求メテ置キマス、ソレカラ其中ニ二十五歳以上ノ女子ノ數ガ御調ニナッテ居リマスカモ知レマセヌガ、御調ニナッテ居リマスレバ、ソレモ同時ニ御交付ヲ願ヒタイノデアリマス、諸君、改メテ申スマデモアリマセヌガ、立憲君主政治ノ下ニ在ッテ、君主ノ意思ガ一般ノ拘束ノ力ヲ有スルニハ國民ノ同意ヲ得テ之ヲ定メネバナラス、サレバ君主ノ意思ヲ決定スルニ方リ、國民全體ヲシテ直接ニ參與

セシムベキ筈デアリマスルガ、國民ハ頗ル多數デアリマシテ實行甚ダ困難ナルガ故ニ、國民代表ノ議會ヲ設ケ、其同意アリタルトキハ全國民ノ同意アリタルモノト看做スノデアリマス、是レ全ク已ムヲ得ザルニ出タモノデアリマスカラ、セメテハ其手續デアル所ノ選舉權ヲ恰ク國民ニ認ムベキデアリマシテ、立憲政治ノ本旨ハ茲ニ初メテ完ウスルコトガ出來ルノデアリマス、ソレデアリマスレバコソ明治元年五箇條ノ御誓文ニ「廣ク會議ヲ興シ萬機公論ニ決スヘシ」ト宣ハセラレテアルデアリマセヌカ、固ヨリ議員タル者ハ、全國ニ互ッテ國民各部ノ利害ヲ代表スベキハ言フ迄モアリマセヌ、併シ實際ニ於キマシテハ選舉區ノ有權者ト、所屬黨派ノ事情ヤ、意嚮ニ動カサレ易キハ明白ナル事實デアリマス、然ラバ之ヲ立憲政治ノ本旨ニ接近セシムル方法ハ無キカト申シマスレバ、大ニアルノデアリマス、則チ國民各部ノ利害ヲ代表セシメルガ爲ニ、各部ニ有權者ヲ置キ各部ヨリ議員ヲ選出セシムルトキハ、單リ上流、中流階級ノ利害ニカリデハナク、下流階級ノ利害ヲモ等シク代表セラル、コトニナリマシテ、茲ニ選舉權擴張ノ主要ナル意義ハ初メテ徹底スルノデアリマス、尙ホ具體的ニ申シマスレバ、制限選舉ヲ改メテ普通選舉トスルノガ最上ノ方法デアリマス、吾人ハ前述ノ如ク立憲政治ノ本旨ヲ解セネバナラスト信ジテ疑ヒマセヌ、然ルニ政府案ハ何故ニ選舉權擴張ニ方ッテ今尙ホ立憲政治ノ本旨ニ適應セヌ制限選舉ヲ固守セムトサレルノデアリマセウカ、茲ニ於テ私ハ二三ノ質問ヲ試ミネバナラスコトニナッタデアリマス、政府ノ御考デハ、第一我國ハ尙ホ立憲政治ノ初期ニ在ルノデ、一般國民ハ未ダ立憲ノ施行ニ慣レヌカラ、餘リニ選舉權ヲ廣クスルノハ危險デアルト云フノデアリマセウカ、斯ル擴張ハ却ッテ弊害ヲ生ズル虞ガアルト云フノデアリマセウカ、第一此點ヲ伺ヒタイノデアリマス、成ルホド我國ハ歐米諸國ヨリモ憲政ノ施行ガ比較的新シキコトハ言フ迄モアリマセヌ、ソレデモ憲法發布後三十年、府縣會設置後四十年餘ニナッテ居リマス、三十年、四十年ノ試験ハ、人間ノ生活ニ於キマシテハ決シテ短イモノデアリマセヌ、選舉ニ付テ全ク經驗ヲ有シナイ國民ノ間ニ、初メテ憲政ヲ施行スル場合デアリマシタナラバ、最初ノ試験トシテハ制限ヲ加フルコトモ已ムヲ得ナイカモ知レマセヌガ、三四十年ノ經驗ヲ有スル我國ニ於テハ、試験ノ時代ハ過去ッテ居リマス、國民ガ憲政ノ施行ニ慣レヌト云フコトハ決シテ選舉制限ノ理由ト爲スニハ足リマセヌ、又弊害ヲ生ズル虞アリト云フコトモ出來マセヌ、況シテ明治四十一年以

來一再ニ止ラズ、普通選舉案ガ議會ニ出現シタデアリマセスカ、獨逸帝國ノ如キハ其初メテ北獨逸聯邦ヲ組織シ、初メテ憲政ヲ施行スルニ方ッテ、最初ヨリ既ニ普通選舉ヲ採リ、毫モ危險トシナカッタノミナラズ、其後モ之ガ爲ニ弊害ヲ生ジタコトモナイデアリマス、遡ッテ我が憲政施行ノ徑路ヲ顧ミテ見マスルト、明治元年ノ五箇條ノ御誓文、同八年ノ立憲政體ノ詔書、同十四年ノ國會開設ノ勅諭、同二十二年ノ憲法發布ノ勅語等ガアリマシテ、漸次準備ニ準備ヲ重ネテ、同二十三年ニ初メテ議會開會トナッタデアリマス、尙ホ其期間ニ明治六年以來、板垣、後藤、副島、江藤參議ノ民選議員ノ建白モアリマスルシ、先輩諸公ノ國會開設請願ノ運動モ起リマスシ、同十四年大隈侯ノ野ニ下リシ頃ハ、最早國會開設ノ詔勅ナクテハ天下ノ政道安全ニ進行シ難キ程ニナッタデアリマス、明治六年ヨリ十四年マデニ國民ノ政治的自覺ハ大ニ進歩シタニ相違ハアリマセスガ、尙ホ此自覺ヲ有シタ者ハ僅々少數ノ部分ニ過ギナカッタデアリマス、然レドモ此誠意ト勢力トハ專横ナル藩閥政府ヲ強要シ、同二十三年ヲ期シテ國會ヲ開キ立憲政治ノ端ヲ發セシムルコトニナッタデアリマス、憲政施行ニ至ルマデノ經過斯ノ如ク、二十三年ヲ費シ、其施行後今日ニ至ルマデ、又殆ド三十二年ノ星霜ヲ經タルニ拘ラズ、世ニハ國民一般ガ普通選舉ヲ要求スルマデ之ヲ延期セムト欲スル論者ガナカク、多イノデアリマス、然レドモ是ゾ甚ダ危險ナ方法ト言ハネバナリマセス、何故ナラバ國民一般ガ普通選舉ヲ要求スルマデ放任シ置キマシタナラバ、取モ直サズ社會ノ有力ナル分子ニ非常ナ不平ヲ鬱結セシメ、政府ガ民意輿論ト認メテ讓歩スル頃ハ、既ニ不自然ナル政變ヲ生ズル虞ガアルカラデアリマス、彼ノ國會開設ノ請願ニモ一般ノ國民ハ與ラナカッタデアリマス、少數ナガラ社會ノ一部ニ政治思想ヲ有スル有力ナル分子ガアッテ、遂ニ國會開設ヲ見ルニ至ッタデアリマス、是ハマア第一デアリマス、第二ニ伺ヒタイノハ、或ハ國民ノ政治思想ガ尙ホ未ダ幼稚デアルト云フデアリマセウカ如何ヲ伺ヒタイノデアリマス、勿論國民ノ總テガ政治家ノ如ク國事ニ熱心デアアルコトハ望ムベカラザルコトデアリマスシ、又決シテ望マシイコトデアリマセス、實際上國政ニ參與スル者ハ、唯議員トシテ當選シタ者ノミデアリマス、一般選舉人ハ唯選舉權ヲ行フバカリデアリマスカラシテ、自ラ國政ニ參與スル所ノ能力ヲ有スル者デアリマセス、單ニ候補者トシテ立ッテ居ル者ハ、果シテ議員トシテ適任デアアルカ否カヲ識別シ得ベキ能力ダニアリマスレバ足レリトスルデア

リマス、斯ノ如キ普通能力ニ於キマシテハ、我が國民ハ決シテ歐洲國民ニ劣ルモノデアリマセス、普通教育ノ普及ニ於キマシテモ、敢テ後レヲ取ルモノデアリマセス、況シテ愛國忠誠ノ念ニ至リマシテハ、實ニ我が國民ノ誇トスル所デアリマス、此忠良ナル國民ニ對シテ廣ク選舉權ヲ與ヘルコトハ危險デアルトカ、弊害ヲ生ズル虞ガアルトカ、政治思想ガ幼稚デアルトカト云フノハ、實ニ國民ヲ侮辱スルモノデアリマスマイカ、今日我國ト歐洲諸國トヲ比較シテ見マスニ、我國ニ於キマシテ單リ選舉權ニ制限ヲ加ヘルコトハ全ク其理由ヲ見出し得ナイノミナラズ、却ッテ反對ニ我國ニ於テハ選舉權ヲ制限スル理由ニ乏シイデアリマス、歐洲諸國ニ於キマシテハ社會民主黨ノ如キ、虛無黨ノ如キ、又ハ民族黨ノ如キ、甚シキニ至リマシテハ國家其モノノ存在ヲ呪フコトヲ主義トスル如キ思想ガ相當ニ勢力ヲ有スルニ拘ラズ、既ニ選舉權ノ制限ヲ全廢シタノニ危險モナケレバ弊害ヲモ生ゼヌデアリマセスカ、唯、普魯西國ガ今日尙ホ不合理極マル三段選舉ヲ維持シ、索遜國ガ普通選舉ニ改メタノハ宜シイケレド、尙ホ複數投票制ヲ採ッテ選舉權ニ差等ヲ付ケテ居リマスノモ、詰リ社會民主黨ノ勢力増加ヲ恐ル、爲デアリマス、單リ我國ニ於テ選舉權ノ制限全廢ハ斯ノ如キ危險ノ伴フ虞ガナイ、等シク陛下ノ忠良ナル臣民デアッテ、政體ノ爭モナケレバ、民族ノ爭モナイ、六千万人ノ臣民一人トシテ皇室ノ隆運ヲ祈ラナイ者ハナイ、一トシテ國家ノ存在ヲ呪フ者モナイ、若シ世界ニ於テ最モ安全ニ選舉權ノ制限全廢ヲ決行シ得ルモノヲ求メマシタナラバ、我國ハ確カニ其一ツデアラウト信ジテ疑ヒマセス、第三ニハ女子ノ參政權ニ付デアリマス、佛國ノ革命議會ニ於テ「ミラボー」ガ演說シタ中ニ、國會ハ猶ホ地圖ノ如シ、地圖ニ於テ全國ノ地形ガ其儘縮寫サレル如クニ、國會ニ於テモ尙ホ國民ノ總テノ階級ノ勢力、利益ガ遺憾ナク代表セラレネバナラヌト言ヒマシタノハ、國會ノ性質ヲ説明スルモノトシテ屢、引用サレルガ、國會ハ實ニ斯ノ如キモノデアラネバナリマセス、國會ハ國民ノ代表機能デアルトハ、何人モ異口同音ニ唱フル所デアリマス、今ヤ個人ガ其本性、本能ヲ自由ニ發展シテ、社會國家ニ貢獻スル機會ニ平等ニ均霑シ得ルト云フコトハ、世界ノ風潮デアリマシテ、如何ナル權力モ之ニ逆行スルコトハ到底不可能デアルト謂ハザルヲ得マセス、若シ強テ之ニ逆行セムトスルモノガアルト致シマスレバ、是レ時勢ヲ解セザル頑冥不靈ノ人デアッテ、自ラ好シデ進歩デナク、退歩ヒルモノデアルト謂ハナケレバナリマセス、サウシテ女子ノ

教育モ維新以來大ニ其面目ヲ改メテ進歩發展シツ、アルノミナラズ、漸ク社會ノ需要ニ應ジテ教育事業ヤ、交通機關ヤ、其他ノ職業ト勞作トヲ通ジテ精神のニ、將又物質のニ社會、國家ニ貢獻シテ居ルノデアリマス、斯様ニ立憲政治ノ本旨カラ云ヒマシテモ、世界ノ大勢カラ見マシテモ、尙又國民タルベキ義務履行ノ上カラ論ジマシテモ、今日選舉權擴張ノ場合ニ於キマシテ、愛國心ト國民的義務履行トニ於テ平等デアル女子ガ、ドウシテ國政ニ參與スル上ニ於テ、不平等ナル待遇ヲ受ケネバナラヌノデアリマセウカ、私ハ甚ダ了解ニ苦シムノデアリマス、素ヨリ女子參政權ニ付キマシテ、人體ノ構造ヤ、教育ノ程度ヤ、古來ノ習慣ヤ、其他種々ノ原因ヨリシテ反對論ガアルニ相違アリマセヌガ、其反對論タルヤ詮ジ詰レバ、古來女子ヲ男子ト同等ノ人間扱ニセナシテ結果ヲ捉ヘテ、直チニ之ヲ論及スルカ、或ハ又男子自己ノ便宜ヲ主トスル偏見ニ基因スルニ非ザレバ、全ク一片ノ杞憂ニ外ナラヌノデアリマス、早イ話ガ社會、國家ノ進歩ト云ヒ、國力充實ト云フノモ、詰ル所ハ國民全體ノ勤勞ノ結晶デアリマス、上ハ知識階級精神のノ人ヨリ、下ハ勞働階級ノ庶民の階級ニ至ルマデ、勞働ヨリ成ルノデアリマス、ソレデアレバコソ我國ニ於キマシテモ、古來男女相俟ッテ協力シテ現代ノ程度マデ漕付ケタノデアリマセヌカ、況シテ今日ハ女子ガ富國強兵ノ上ニ貢獻シテ居リマスル狀況ハ、殆ド男子ト同等デアルト云ッテモ過言デアリマセヌ、然ルニ女子ヲ參政權ヨリ除外スルコトニナレバ、是ゾ即チ女子ヲ非國民扱ニシ、女子ニ對スル非常ナ侮辱デアルト云ハネバナリマセヌ、斯ル非立憲的ノ法制ハ、苟モ文明國ノ仲間入ヲシタ我國ニアルマジキコトデハナイデアリマセヌカ、終ニ臨ミマシテ一言附加ヘテ置キタイコトハ、家庭ニ於ケル母親ノ權威ニ付テデアリマス、申ス迄モアリマセヌガ……

○議長(公爵徳川家達君) 御意見ハ御斷ヲ致シマス

○山脇玄君 イヤ、質問ノ趣意ヲ徹底サシテ頂キタイ……古來英雄、偉人ノ背後ニハ必ズ賢明ナル母親アルニ鑑ミマシテモ、亦現代青年子女ノ教育程度ノ進歩ニ見マシテモ、男女性別ニ依ッテ社會上ノ地位、境遇ニ差等ガアルヤウデアリマス、家庭ニ於テ青年子女ヲ教養スル上ニ甚ダ不便ヲ感ズルコトハ、皆サンモ我ト共ニ日常實驗ナサレル所デアラウト存ジマス、シテ見レバ此點ヨリシマシテモ、此好機會ヲ逸シマセズ、男女同等ニ參政權ヲ要求セネバナラヌ次第トナルノデアリマス、右三點ニ付キマシテ徹底の御答ヲ願ヒタ

イ

〔國務大臣床次竹二郎君演壇ニ登ル〕

○國務大臣(床次竹二郎君) 唯今ノ御尋ハ斯ウ心得マスガ、政府ハ普通選舉論ニ對シテドウ考ヘテ居ルカ、斯ウ云フ大體御尋ノヤウニ心得マス、普通選舉論ニモソレノ程度ノアルヤウニ考ヘマス、一定ノ年齡ニ達シタ男子ノミニ參政權ヲ與ヘル、若クハ又一定ノ年齡ニ達シタ女子ヲモ加ヘ參政權ヲ與ヘル、或ル年齡ニ達セヌ者ハ男女共ニ省クト、斯ウ云フコトノヤウニ色々アリマスルヤウデスガ、何レノ途、人間ハ生レナガラニシテ平等ナルモノデハナイト考ヘマス、又長幼ニ依ッテ思想ノ相違モアルモノト考ヘマス、既ニ男ナラバ男、女ヲ加ヘテモ、相當ノ年齡ニ制限ヲ置イテ、茲ニ選舉權ヲ認メルト云フ以上ハ、何等カ制限ヲ置クベキ必要ガアツテ置クノデアルト考ヘルノデアリマスガ、詰リ選舉權ヲ與ヘル與ヘスト申シマスノハ、之ヲ行使スル能力アリヤ否ヤト云フコトガ、結局問題ノ歸著點ニナルノダラウト思ヒマス、左様ニ致シマスルナラバ、此選舉權問題ト云フモノハ、時ニ依ッテ、所ニ依ッテ、ソレトノ差異ノアルコトハ勿論ノコト考ヘマス、歐羅巴ニ於テ普通選舉ガ行ハレテ居リマスルニハ、ソレトノ相當ノ歴史、沿革ガアツテ其所ニ至ッタコトデアリマセウ、我國ニ於テ選舉權ヲ論ズルニモ亦時勢ニ依ラザルヲ得ナイ、最初カラ今日マデ漸次選舉權ヲ擴張イタシ來ッテ、即チ此度モ又約倍數ニ之ヲ擴張セムトスルノデゴザイマスノデアリマスガ、凡ソ斯ウ云フコトハ順序ヲ履ンデ漸次其途ヲ執ルト云フコトガ、最モ然ルベキコトデアルト考ヘマシタノデアリマス、ソレヲ細カク分ツテ、直チニ茲ニ選舉權ヲ與ヘレバ弊害アルヤ否ヤ、政治思想ガ發達セザルヤ否ヤト云フ所マデ論及スルノデアリマセウガ一定ノ納稅額ヲ納メヌ者ニ致シマシテモ相當ノ知識、經驗ヲ備ヘタ者ハアリマス、納稅者デアリマシテモ一々之ヲ吟味スルトキニ於テハ、其能力ニ疑ハシイ者モアルト考ヘマス、併シ制度ヲ立テルニハ先ヅ大體カラ判斷ヲ致スヨリ外ハナイノデアリマシテ、今日ノ大體カラ申セバ、先程申上ゲマシタ如ク、漸ヲ以テ進ムト云フコトガ最モ適當ナリト考ヘマシタノデゴザリマス、細カク分ツテ御答ヲ申上ゲマセヌデモ、其邊ハ御了解下サルコトト考ヘマス、女子ニ選舉權ヲ與ヘナイノモ同ジ理由デゴザリマス

○議長(公爵徳川家達君) 高崎君ニ伺ヒマスガ、高崎君ノ質問ハ大分時間ヲ要シマスカ

○高崎親章君 極ク簡單デゴザイマス

○山脇玄君 モウ一應内務大臣ニ伺ヒタイ、内務大臣ハ此知識ノ程度或ハ制限ノコトヲ御述ノヤウデアリマスガ、我々一番伺ヒタイノハ、今此制限ヲ直チニ撤廢シタナラバドレ程ノ弊害ヲ生ズルカ、其弊害ヲ伺ヒタイ、我々ハ弊害ハアルマイト見込シテ居リマス、内務大臣ハ弊害ガアルト認メラレル、其弊害ノ點ヲ一々列舉シテ下サレバ、我々ガ反省スル材料ニナルト思ヒマス、モウ一應弊害ノ點ヲ列舉シテ戴キタウゴザイマス

〔國務大臣床次竹二郎君演壇ニ登ル〕

○國務大臣(床次竹二郎君) 私ハ斯様ニ考ヘマス、一國ノ政治ヲ爲スニハ、ソレト秩序アル穩當ナル進ミ方ヲ致スコトガ、其國ヲ進ムル所以デアルト思フノデアリマス

〔山脇玄君「我國ガ……」ト述フ〕

ソレ故ニ今日ノ大體カラ達觀イタシマスルニ、政府ノ原案ガ即チソレニ適フ所以デアル、其程度ヲ超エテ進ムルト云フコトハ穩健ナル政治ヲ進ムル所以デナイト考ヘタ次第デゴザイマス

○高崎親章君 極ク簡單デゴザイマスカラ此席カラ申述べマス、衆議院議員選舉法改正ニ付キマシテ政黨ニ關係ノアルコトハ、唯今内務大臣ヨリ縷々數百言ヲ申述べラレタノデアリマス、固ヨリ此改正ニ付テハ各政黨ニ利害關係ヲ及ボスコト少カラスト考ヘマスガ、殊ニ區劃ノ改正ニ於テハ最モ其關係ガ厚イノデアリマス、茲ニ於テ内務大臣ニ御伺ヒ致シタイノハ、政府ガ立憲政治ノ運用上政黨ヲ目セラル、コトハ大政黨ヲ主眼トセラル、カ、將タ小黨分立ヲ目的トセラル、カ、此選舉法ヲ議會ニ提供セラレタル此御目的ニ付テハ、大政黨若クハ小黨分立、此二ツノ何レヲ以テ目的トセラレタルカ、將タ政黨ヲ更ニ眼中ニ置カナイデ本案ヲ編纂セラレタモノデアルカ、唯今内務大臣ノ御説明ニ依リマス、政黨ノ爲ニ本案ノ改正ハ不可ナリ、併ナガラ本案改正上政黨ノ發達ニ資スルト云フコトハ必要デアル、斯ウ云フコトヲ申述べラレマシタガ、是ハ誠ニ巧ナル御言葉デアッテ、私共解釋ニ苦シム、本案改正ガ如何ナル政黨ノ爲ニ利益デアルカト云フ事柄ニ付テハ、何カ御目的ガアルデアラウト察セラレマスナレドモ、唯今ノ御言葉ハ甚ダ解釋ニ苦シムノデアリマス、茲ニ御伺ヒ致シタイノハ、本案ヲ編成セラル、ニ當ッテ、大政黨ヲ目的トセラレタノデアルカ、或ハ小黨分立ヲ主眼トセラレタノデアルカ、此御目的

ヲ伺ヒタイノデアリマス、次ニ伺ヒタイノハ現行ノ大選舉區ヲ小選舉區ニ改メラレル、此別表ヲ見マスルト、二人制ガ六十九、三人制ガ十一區ニナッテ居リマスガ、三人制ト云フ事柄ナドハ殆ド中選舉區トモ申スベキモノデアラウト思ヒマス、小選舉區ニ改メラル、以上ハ一人一區制ヲ採ラレテ然ルベキト思ヒマスガ、或ハ是ハ行政區ノ人口ノ都合ニ依ッテ其配合ガ出來ルト云フ關係デアリマセウケレドモ、法律ヲ以テ之ヲ改正スル以上ハ、必シモ行政區ニ依ラズトモ選舉區ヲ別ニ立テテモ差支ナイコトデアリマスガ、一人一區制ト云フコトハ、ドウシテモ出來ナカッタノデアリマスガ、出來ナイノハドウ云フ理由デアルカ、之ヲ伺ヒタイ、此二點ヲ伺ッテ見タイノデアリマス

〔國務大臣床次竹二郎君演壇ニ登ル〕

○國務大臣(床次竹二郎君) 御答ヘ致シマス、先程説明ノ中ニ申上ゲマシタコトハ、今日同士討ト云フヤウナコトガ行ハレテ居ル、斯ウ云フコトハ政黨ノ發達上甚ダ宜クナイ、デ小選舉區ニ改メマスレバ其邊ノ弊害ハ宜クナル積リデアル、自然政黨ノ發達上ニモ是ハ都合ガ宜シイ、斯様ニ申シマシタ、併ナガラ選舉法ノ改正ハ元ト政黨ノ都合ノミヲ以テ改正スベキモノデハ勿論ゴザイマセスト云フコトハ、併セテ申上ゲタ積リデアリマス、從ッテ此改正ニ於テ小黨分立若クハ大政黨ヲ作ルト云フヤウナコトハ何等眼中ニゴザリマセヌ又區劃ノ大小ニ依ッテ大政黨ニ都合ガ宜クナル、小政黨ガ分立、小政黨ニ都合デアルトモ私ハ考ヘマセヌ、小黨分立若クハ大政黨ガ出來ルト云フコトハ、世ノ勢デアルト考ヘマス、寧ロ今日ハ各國トモニ社會ノ狀態複雜ナルニ從ッテ、政黨ハ分裂スル傾ガアルカト其點ハ考ヘテ居リマス、小選舉區若クハ大選舉區タル爲ニ左様ナルモノトハ考ヘマセヌ、ソレカラ二人區若クハ三人區ノ選舉區ヲ作ルニ至リマシタコトハ、先程申上ゲマシタ如ク、原則トシテハドコマデモ一人制ヲ採リタイト云フ積リデゴザリマシタ、併ナガラ一區一人制ヲ嚴守イタスト云フコトニナリマス、人口ノ上ニ於テ甚ダ不平均ナルコトモ起ッテ參リマス、地形上カラ申シマシテモ無理ナ所ガ隨分起ッテ參リマス、已ムヲ得ズ二人若クハ三人一區ト致ス方ガドウモ公平ニシテ都合ガ好イト思フ所ガアル爲ニ、左様ナモノガ出來タ次第デゴザイマス、選舉區ヲ區劃イタシマスルニ、町村別ヲ以テ致シマシタナラバ、或ハ人口ノ點ナゾハ極メテ公平ヲ得テ一區一人制ヲ行フノニ都合ガ好イト思ヒマスルガ、偕此行政區劃ヲ分割イタシマシテ、勝手次第ト申シテハ語弊ガアルカ知レマセヌガ、兎ニ角

左様ニ分配ヲ致スト云フコトハ甚ダ困難ナコトデモアリマスルシ、手數デモアリマスルシ、左様ナコトヲ致シテマデモ此選舉區制ヲドコマデモ畫一式ニヤラナケレバナラヌ次第トモ考ヘナカッタ次第アリマス

○議長(公爵徳川家達君) 休憩ヲ致シマス

午後零時一分休憩

午後一時十八分開議

○議長(公爵徳川家達君) 是ヨリ會議ヲ開キマス、高崎君

○高崎親章君 先刻ノ續ヲモウ一言内務大臣ニ御説明ヲ願ヒタイ、先刻ノ御答辯ニ本案制定ニ付テハ政黨ハ大政黨モ小政黨モ更ニ眼中ニ置カナイト云フ御辯明デアリマシタガ、併ナガラ其前ニ内務大臣ノ御説明中、大選舉區デアルト同ジ黨派ガ互ニ競争シ、德義上ニ於テモ甚ダ面白カラザル結果ヲ見ルコトガ多々アル、是等ニ付テモ小選舉區ガ最モ適當デアルト云フ御説明デアッタデアリマス、果シテ右様ナ事實ガアリトシマスレバ、大政黨デアルト云フト候補者ガ其選舉區内ニ數多現ハレルデアリマス、小黨デアルト云フト其候補者ガ從ッテ少イデアリマス、故ニ此大選舉區ニ於テ同ジ黨派ガ鎬ヲ削ッテ争フト云フ所ノ弊ヲ除却スルニハ、小選舉區ガ宜シイト云フ御意見デアリマスルト、内務大臣ノ御目的ハ此選舉區ニ付テハ、大政黨ヲ主眼トシテ居ラレルト云フニトガ、御言葉ノ中ニ現ハレルヤウデアリマス、然ラバ私共ノ内務大臣ノ御説明ニ依ッテ考ヘル所デハ、此選舉法ノ改正ハ、政府ハ憲法政治ノ運用ヲ爲ス上ニ於テハ大政黨デナケレバナラヌト云フ御目的ガアルト云フニトガ、御言葉ノ中ニ現ハレルヤウニ考ヘマスガ、ソレデハ此選舉法ノ改正ニ付テハ、何等眼中政黨ヲ置カナイト云フ御考デゴザイマセウカ、モウ一遍伺ヒタイノデゴザイマス

〔國務大臣床次竹二郎君演壇ニ登ル〕

○國務大臣(床次竹二郎君) 御答イタシマス、小選舉區ニ致シマシタ方ガ政黨ノ爲ニ都合ガ宜シイト考ヘマス、其事ハ左様ニ申上ゲマシタ、併ナガラ政黨ノ爲ニ都合ガ好イト申上ゲタコトハ、大政黨ニ限ッテ都合ガ宜イト申上ゲタ次第デアリマセヌ、黨ノ大小ヲ問ハズ、政黨ト致シマシテハ小選舉區ノ方ガ都合ガ宜イ、斯様ニ申上ゲタコトデアリマスル、デ大小選舉區ノ爲ニ、小選舉區デアレバ是ガ大政黨ニ都合ガ宜イト云フコトハ、私ハ理窟ヲ發見イタ

シマセヌ、唯大選舉區ノ方ガ少數代表者ヲ出スニ都合ガ宜イト云フコトハ往々議論ヲセラレル所デアリマシテ、或ハ強テ區別ヲ致シマシタナラバ、大選舉區ノ方ガ少數黨ノ爲ニ宜イカモ知レマセヌガ、併シ強チ左様ニハ今日ノ實際ニ於テ斷定ハ出來ナイト云フコトモ更ニ申上ゲタノデアリマス、ソレハ何故カト申セバ、政黨ノ勢力ノ分布ノ狀況ハ一府縣ヲ通ジテ一樣ニゴザイマセヌ、南部ノ方ニハ甲黨ガ勢力ガアリ、北部ノ方ニハ乙ノ黨ガ勢力ガアルト云フコトガ今日ノ實況デゴザイマスルカラ、小選舉區制ニナルガ爲ニ少數黨ハ却ッテ利益ノアル場合モゴザイマス、又小選舉區制ノ時分ニハ少數黨ガ比例的ニ選舉サレナイ、ソレダカラ之ヲ大選舉區ニ改メル、其例トシテ少數黨ガ却ッテ利益ヲ得テ居ルコトガアル、利益ト云フコトハ少數黨ノ方ガヨリ以上ノ議員ヲ選出スル、即チ黨ノ勢力ニ比較シテ不均衡デアアル、是ガ小選舉區ヲ改メテ大選舉區ニスル所以デアルト云フノガ、現行法ニ改メラレル時ノ理由ノ一ツデアリマス、即チ反面カラ申シマスレバ、小選舉區必シモ少數黨ノ不利益ニナラナイト云フコトニナリマス、實際ノ狀況ハ私ハ左様ニ考ヘマス

○男爵高木兼寛君 本案ノ特別委員ヲ十八名ト定メテ御選定アラムコトヲ希望イタシマス

○男爵石黒忠恵君 賛成イタシマス

○議長(公爵徳川家達君) 本案ノ委員ノ數ヲ十八名トスル高木男爵ノ動議ニ同意ノ諸君ノ起立ヲ請ヒマス

起立者 多數

○議長(公爵徳川家達君) 過半數ト認メマス、特別委員ノ氏名ヲ、書記官ヲシテ朗讀ヲ致サセマス

〔岡書記官朗讀〕

衆議院議員選舉法中改正法律案特別委員

侯爵徳川 賴倫君	伯爵清棲 家教君	伯爵松平 賴壽君
男爵小澤 武雄君	平山 成信君	子爵前田 利定君
子爵板倉 勝憲君	松室 致君	男爵中川 興長君
有松 英義君	男爵南岩倉 具威君	男爵東郷 安君
石渡 敏一君	澤柳 政太郎君	伊澤 多喜男君
江原 素六君	鎌田 勝太郎君	横山 章君
○伯爵松浦厚君	時局ノ影響ニ因ル地方税制限擴張ニ關スル法律案ノ特別委	

員會ヲ開キタイト思ヒマス、是ヨリ其特別委員ダケノ退場ヲ御許ヲ願ヒマス
○議長(公爵徳川家達君) 松浦伯爵ノ要求ニ對シテ御異議ハゴザイマセスカ
「異議ナシ」ト呼フ者アリ」

○議長(公爵徳川家達君) 御異議ナイト認メマス、此際諸君ニ御諮リヲ致シ
テ置キマスガ、他ニモ常任委員會若クハ特別委員會ヲ本會議中ニ開會シタイ
ト云フ要求ガゴザイマシタナラ、議長ニ於テ差支ナイト認メマス限リ許可ヲ
致シテ宜シウゴザイマスカ、豫メ諸君ノ御意見ヲ伺ッテ置キマス、大ニ便利
ニナルト存ジマス

「異議ナシ」ト呼フ者アリ」

○議長(公爵徳川家達君) 御異議ナイト認メマス、議長ニ於テ左様御取計ヒ
マス

○議長(公爵徳川家達君) 日程第四、大正六年法律第六號中改正法律案、政
府提出、衆議院送付、第一讀會ノ續、委員長報告

「左ノ報告書ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノタメ茲ニ載録ス」

大正六年法律第六號中改正法律案

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

大正八年三月六日

右特別委員長

侯爵蜂須賀正韶

貴族院議長公爵徳川家達殿

「侯爵蜂須賀正韶君演壇ニ登ル」

○侯爵蜂須賀正韶君 大正六年法律第六號中改正法律案ノ委員會ノ經過及結
果ヲ御報告イタシマス、本委員會ニ於キマシテハ、委員會ハ前後二回開キマ
シタ、去ル四日及六日デゴザイマシタ、委員會ニ於キマシテハ、委員一同本
案ニハ誠ニ同感デゴザイマシテ、全會一致ヲ以テ可決イタシマシタノデゴザ
イマス、本案ハ軍人ノ恩給ニ關係イタシマシタモノデアリマシテ、大正六年
法律第六號デハ明治四十四年四月以前ニ恩給ヲ受ケテ居リマス者ニ、現在行
ハレテ居ル恩給額ヲ給シタイト云フコトデ、其際ハ財政ノ都合上全額ヲ給ス
ル譯ニイカナイノデ、大正七年一月ヨリ五箇年ニ互ル年割額ノ規定ガソレニ
添ウテ居ルノデアリマス、所ガ段々物價ハ騰貴スル、下級者デ即チ下士卒ノ低

イ恩給ヲ受ケテ居ル者ガ生計ニ困難スル事情モアリ、旁、政府ハ年割額ノ規定
ヲ改正シマシテ四月一日ヨリ全額ヲ給シタイ、斯ウ云フノガ改正ノ趣意デア
リマス、委員會ニ於キマシテハ、段々御質問ガアリマシタガ、其中デ四月ノ
一日ニ改正ト云フコトハ、寧ロ大正八年一月一日トシタガ宜イノデハナイ
カシラ、僅カ三箇月分ノ經費トシテハサウ大シタコトデハアルマイシ、又法
律ハ既往ニ遡ラズトハ申シナガラ、是ハ唯政府ノ財政ノ都合上、五箇年ノ年
割額ノ規定ヲ拵ヘタノデアルカラ、左程困難ナコトデモアルマイガト云フ質
問モ出マシタノデゴザイマシタガ、政府委員ノ方ニ於キマシテハ、一月一日
カラト云フコトニ致スト、追加豫算ノ財源ニ困ル、ソレト四月一日カラト云フ
コトデ漸クト此案ガ出來上ガッタ譯デアルカラ、是ハ已ムヲ得ナイノデアルカ
ラ、其儘ニシテ貫ヒタイト云フコトデアリマシタ、尙ホ委員、御一人カラ、名
譽進級サレタ者ニ名譽進級サレタ當時、其階級ノ恩給ヲ給スル譯ニハ今マデ
ナッテ居ラヌノデ、ドウゾ將來ハ名譽進級サレタラ、其階級ノ恩給ヲ給與スル
ヤウニシタイト云フ、斯ウ云フ希望ガアリマシタ、又今一ツハ一體政府ハ、
此恩給法デ現在ノ事情ニ鑑ミテ、下級者即チ下士卒アタリノ低イ恩給デ、滿
足シテ居ラル、ノデアラウカト云フ御問ガ出マシタ、是ハ餘リ十分デアルノ
デハナイ、斯ウ云フ政府委員カラノ御答辯ガアリマシタモノデスカラ、是モ
附加ヘテ希望トシテ述べルガ、ドウゾ近キ將來ニ於テ是ガ改正ヲ行ハレテ、
而シテ成ルベク低イ恩給者ニ厚ク恩給ヲ給スルヤウナ方法ガ付クナラバ、尙
ホ宜シイガト云フコトノ希望ヲ述べラレマシタコトデゴザイマシタ、右御報
告イタシマス

○男爵山内長人君 唯今議題ニナッテ居リマス法律案ハ洵ニ簡單明瞭ナ案デ
アリマス、而シテ此法案ニ關係イタシマスル諸願ハ、本院ヘ數十通既ニ提出
ニナッテ居リマス、當院ニ於キマシテハ願意ノ大體ハ採擇スベキモノトシテ、
政府ニ御送付ニナリマシタコト既ニ四回ニ及ブト考ヘマス、故ニ讀會ヲ省略
シテ可決確定アラムコトヲ希望イタシマス

○男爵高木兼寛君 賛成イタシマス

○男爵小澤武雄君 賛成

○男爵藤井包總君 讀會省略ニ賛成

○男爵中川興長君 賛成

○男爵内田正敏君 賛成

○男爵佐竹義準君 賛成

○山脇玄君 賛成

○伯爵柳原義光君 賛成

○加太邦憲君 賛成

○男爵西紳六郎君 賛成

〔其他「賛成」ト呼フ者アリ〕

○議長(公爵徳川家達君) 山内男爵ノ讀會省略ノ動議ニ同意ノ諸君ノ起立ヲ請ヒマス

起立者 多數

○議長(公爵徳川家達君) 三分ノ二以上ト認メマス、原案ニ御異存ゴザイマセヌカ

〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○議長(公爵徳川家達君) 御異議ナイト認メマス

○議長(公爵徳川家達君) 日程第五、史蹟名勝天然紀念物保存法案、侯爵徳川頼倫君外六名發議、第一讀會

〔左ノ提出文及議案ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノタメ茲ニ載録ス〕

史蹟名勝天然紀念物保存法案

右貴族院規則第六十四條ニ依リ提出候也

大正八年三月八日

發議者

侯爵徳川 頼倫 男爵小澤 武雄 男爵石黒 忠恵

男爵目賀田種太郎 男爵阪谷 芳郎 三宅 秀

水野 鍊太郎

賛成者

侯爵蜂須賀 正韻 侯爵徳川 囃順 侯爵細川 護立

侯爵佐佐木 行忠 伯爵吉井 幸藏 伯爵松本 宗隆

伯爵廣澤 金次郎 伯爵大木 遠吉 伯爵松平 賴壽

子爵伏原 宣足 子爵山口 弘達 子爵土方 雄志

子爵舟橋 遂賢 子爵實吉 安純 子爵樋口 誠康

子爵東坊城 徳長 子爵青木 信光 子爵牧野 忠篤

子爵伊集院 兼知 子爵前田 利定 子爵西大路 吉光

子爵井上 匡四郎 子爵榎本 武憲 子爵豐岡 圭資

子爵伊東 祐弘 子爵片桐 貞央 子爵野村 益三

子爵八條 隆正 男爵高木 兼寛 男爵山中 信儀

阿部 浩 大山 綱昌 男爵中川 興長

男爵村上 敬次郎 和田 彦次郎 河村 讓三郎

男爵宇佐川 一正 男爵高千穂 宣麿 男爵名和 長憲

男爵西 紳六郎 男爵太秦 供康 男爵阪井 重季

男爵内田 正敏 男爵肝付 兼行 男爵南岩倉 具威

男爵山内 豐政 男爵小早川 四郎 男爵船越 光之丞

男爵千秋 季隆 男爵北大路 實信 男爵伊丹 春雄

男爵長松 篤兼 男爵神山 郡昭 男爵楠本 正敏

男爵清水 資治 男爵横山 隆俊 男爵二條 正麿

男爵藤堂 高成 男爵辻 太郎 谷 森 眞男

藤田 四郎 加太 邦憲 阪本 鈺之助

高田 早苗 菅原 通敬 高橋 作衛

鎌田 榮吉 星島 謹一郎 鎌田 勝太郎

貴族院議長公爵徳川家達殿

史蹟名勝天然紀念物保存法

第一條 本法ヲ適用スヘキ史蹟名勝天然紀念物ハ内務大臣之ヲ指定ス

前項ノ指定以前ニ於テ必要アルトキハ地方長官ハ假ニ之ヲ指定スルコトヲ得

第二條 史蹟名勝天然紀念物ノ調査ニ關シ必要アルトキハ指定前ト雖當該

吏員ハ其ノ土地又ハ隣接地ニ立入り土地發掘障礙物ノ撤去其ノ他調査ニ

必要ナル行爲ヲ爲スコトヲ得

第三條 史蹟名勝天然紀念物ニ關シ其ノ現狀ヲ變更シ又ハ其ノ保存ニ影響

ヲ及ボスヘキ行爲ヲ爲サムトスルトキハ地方長官ノ許可ヲ受クヘシ

第四條 内務大臣ハ史蹟名勝天然紀念物ノ保存ニ關シ地域ヲ定メテ一定ノ

行爲ヲ禁止若ハ制限シ又ハ必要ナル施設ヲ命スルコトヲ得

前項ノ命令若ハ處分又ハ第二條ノ規定ニ依ル行爲ノ爲損害ヲ被リタル私

人ニ對シテハ命令ノ定ムル所ニ依リ政府之ヲ補償ス

第五條 內務大臣ハ地方公共團體ヲ指定シテ史蹟名勝天然紀念物ノ管理ヲ爲サシムルコトヲ得

前項ノ管理ニ要スル費用ハ當該公共團體ノ負擔トス

國庫ハ前項ノ費用ニ對シ其ノ一部ヲ補助スルコトヲ得

第六條 第三條ノ規定ニ違反シ又ハ第四條第一項ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者ハ六月以下ノ禁錮若ハ拘留又ハ百圓以下ノ罰金若ハ科料ニ處ス

附則

本法施行ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

本法施行ノ期日ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

古社寺保存法第十九條ハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

〔水野鍊太郎君演壇ニ登ル〕

○水野鍊太郎君 唯今議題ニ上リマシタ史蹟名勝天然紀念物保存法案ニ付キマシテハ、私モ提出者ノ一人デアリマスルガ故ニ、簡單ニ此法案ノ趣旨ヲ説明イタシタイト思フデアリマス、申スマデモナク我國ハ三千年ニ近イ特殊ノ歴史ヲ有ッテ居ルデアリマス、其歴史ヲ有ッテ居リマス國ト致シマシテ、各地方ニ於キマシテ歷史上由緒アリ、且又國家ノ精華トモ見ラルベキ所ノ幾多ノ史蹟名勝、其他各般ノ紀念物ガ存在シテ居ルデアリマス、是等ノ史蹟、紀念物等ハ、國ノ歴史ヲ偲ビ、國家ノ精華ヲ發揚スルニ於テ最モ有力ニシテ且ツ必要ナルモノデアルト云フコトハ申スマデモナイコトデアリマス、故ニ斯ル史蹟、紀念物等ヲ永遠ニ保存スルト云フコトハ、國家思想ヲ發揚シ國民性ヲ涵養スルコトニ於テ、最モ力アルモノト考ヘルデアリマス、御承知ノ如ク歐米諸國ニ於キマシテモ、其國ノ歴史ヲ偲ブ所ノ史蹟、紀念物等ニ對シマシテハ、國竝ニ公共團體及國民ガ、皆之ニ對シテ相當ノ費用ヲ拂ヒ、之ガ保存ニ努メツ、アルト云フ實況デアリマス、現ニ亞米利加ノ如キ新造國ニ於テハ、新ニ歷史上由緒アル土地其他ノ史蹟ヲ製造イタシマシテ之ヲ保存シ、之ヲ永遠ニ傳ヘルト云フコトヲ以テ國ノ誇トシテ居ル位デアリマス、我國ニ於キマシテハ是等ノコトニ對シマシテ、大ニ意ヲ用ヒツ、アルト云フコトハ事實デアリマス、ケレドモ之ニ對スル特殊ノ法制ガアリマセヌガ爲ニ、十分ナル效果ヲ收メルコトガ出來ナイ、是ハ實ニ御互ニ遺憾トシテ居ル所デアリマス、幸ニ明治三十年ニ古社寺保存法ナルモノガ制定セラレマシテ、歷史上由緒アリ若クハ美術ノ模範トナルベキモノヲ、特ニ保護スル所ノ制度ガ立ッタデアリ

マス、ケレドモ是等ノ法律ニ依ッテ支配セラレテ居リマスルノハ、社寺ノ建造物若クハ寶物ニ過ギナイデアリマス、之ニ對シマシテハ、或ハ特別保護建造物トシテ、或ハ國寶トシテ、之ガ維持ニ努メテ居ルデアリマスルガ、是亦固ヨリ結構ナコトデアリマスルケレドモ、其以外ニ於キマシテ、尙ホ史蹟、名勝、紀念物ガ幾多存シテ居ルト云フコトハ、是亦申スマデモナイデアリマス、是等ノモノニ對シマシテハ、今日法制ヲ以テ之ヲ保存スル制度ガ立ッテ居ラナイ、ソレデアリマスカラシテ、時ニハ破壊シ、時ニハ湮滅セラル、虞ガアルデアリマス、幸ニ史蹟名勝天然紀念物保存協會ト云フ私設ノ會ガアリマス、此所ニ御出デノ徳川賴倫侯ヲ會頭トシテ居ル會ガアリマシテ、是等ノ調査ニ從事セラレツ、アルデアリマス、併ナガラ是ハ固ヨリ一私立團體ニ過ギナイ、是等ノモノヲ保存シ、特別ノ保護ヲ與フルニ付キマシテ法ガ備ハッテ居リマセヌガ爲ニ、知ラズ識ラズノ中ニ湮滅シ、若クハ破壊セラル、ト云フ狀勢ニアルデアリマス、而シテ是等ノモノガ一タビ破壊セラレ、一タビ湮滅セラル、ニ於キマシテハ、之ヲ恢復スルト云フコトハ極メテムヅカシキコトニナルモノデアリマス、左様ノ次第デアリマスカラ、今日ニ於キマシテ之ガ保存ヲ爲スト云フコトハ、最モ必要ナコトト考ヘルデアリマス、此趣旨ヲ以チマシテ、茲ニ此法案ヲ提出イタシマシテ、斯ル由緒アル歷史上ノ昔ヲ偲ブコトヲ得ル所ノ史蹟、名勝、天然紀念物ニ對シマシテハ、國法ガ之ヲ保護シ、必要ナル場合ニハ是等ノモノニ對シマスル行爲ヲ制限シ、禁止シ以テ是等ノモノヲ永遠ニ傳ヘルト云フノガ此法案ノ大體ノ趣旨デアアルデアリマス、私共ハ今日ニ於キマシテハ時機或ハ遲キノ憾ガアル位ニ考ヘルデアリマス、尙ホ今日ニ於キマシテ斯ル法ヲ制定イタシマシテ、願ハクバ是等ノモノヲ永遠ニ保存イタシタイト云フ考ヲ有チマシタ次第デアリマス、大體ノ趣旨ハ今申ス通りノ次第デアリマス、若シ幸ニ特別委員等ニ御付託ニナルヤウナコトガアリマシタラバ、詳細ノコトハ尙ホ委員會ニ於テ申述べタイト思フデアリマス、ドウゾ御賛成アラムコトヲ切望イタシマス

○矢口長右衛門君 質問ヲ致シタウゴザイマス、唯今ノ發案者ニ對シマシテ一言ノ質問ヲ致シマスルガ、此史蹟、名勝ト云フコトハ、此字句ヲ見テ何人モ了解シ得ラレマス、而シテ天然紀念物ト云フ文字ガゴザイマスガ、此文字ニ對シテ紀念物ト云フ理由ハ詳細ニ説明サレマシタガ、天然ト云フコトニ付テ何等ノ解釋モ與ヘテ下サイマセヌ、天然紀念物トハ如何ナルモノデアるか

字句ノ上カラ申シマスレバ、天然ニ紀念サレル物ト云フコトガ分ッテ居リマス
ガ、果シテ實物ハ如何ナルモノデアルカ、實蹟ハ如何ナルモノデアルカ、紀
念物ト云フ御説明ハアリマシタガ、殊更ニ天然ト云フ二字ヲ使ヒマシタコト、
及二三ノ實例ニ付テ御説明ヲ願ヒタウゴザイマス

○水野鍊太郎君 此席カラ御答イタシマス、天然紀念物ト申シマスルノハ、
文字ソレ自身ガ現ハシテ居リマスルガ如ク、天然物ニシテ紀念スベキモノト
云フコトデアリマシテ、例ヘテ申シマスレバ、大キナ木トカ、或ハ其他特殊
ノ動物ト云フモノガアリマシテ、サウ云フヤウナ物ガ、歴史上特殊ノ由緒ヲ
有ッテ居ルモノガアル、是ハ各地方等ニ於キマシテモ御覽ニナリマスルガ如キ
昔カラ由緒ノアル所ノ巨木、大樹ト云フモノガアリマシテ、是等ノモノハ相
成ルベクハ保存ヲ致シタイ、斯ウ云フ趣旨ナノデアリマス、サウ云フヤウナ
意味ヲ以チマシテ、天然紀念物ト云フコトヲ、今日ハ通稱トシテ用ヒテ居ル
次第デアリマス

〔阪本鈺之助君發言ノ許可ヲ求ム〕

○男爵小澤武雄君 本案ハ關係スル所ガ廣クゴザイマスルシ、又相當質問モ
アルコトト思ヒマスカラ、此際議長指名ノ特別委員ニ付託シテ審査ヲ進メラ
レムコトヲ希望イタシマス、諸君ノ御賛成ヲ願ヒマス

○議長(公爵徳川家達君) 阪本君ニ伺ヒマスガ、質問デゴザイマシタカ

○阪本鈺之助君 チョット質問デス

○議長(公爵徳川家達君) 宜シウゴザイマス

○阪本鈺之助君 大シタ事デモアリマセスガ、近頃領收イタシマスル案ニハ、
多ク主務大臣ト書イテアリマスルガ、本案ハ内務大臣ト書イテアリマス、格
別深い趣旨ハナカラウト思ヒマスガ、若シ内務大臣ト云フコトニ何カ御意味
ガアリマスナラバ、御説明ヲ請ヒタイト思ヒマス、若シ深い意味ガアリマセス
ナラバ、委員會デモ成立チマシタナラバ、矢張り近頃ノ例ニ依ッテ主務大臣ト
御改ニナッタ方ガ宜カラウカト思ヒマス、氣付キマシタ故ニ、御注意旁、一應
御尋イタシタイト思ヒマス

○水野鍊太郎君 主務大臣ト書ク法例モアリマス、又特ニ其法案ノ内容ノ明
ナルモノハ、主務大臣ヲ法律ニ明カニシテ居ル法制モアルノデアリマス、而
シテ此法律案ハ内務大臣ノ所管ニ屬スベキコトハ明デアリマスルガ故ニ、茲
ニ内務大臣ト云フ風ニ明瞭ニ書イタノデアリマス、併ナガラ若シ之ヲ主務大

臣ト書イタ所デ一向差支ナイ、唯主務大臣ト書キマスレバ更ニ勅令ヲ以テ主
務大臣ヲ指定シナクレバナラスコトニナリマスルカラ、斯ル明ナモノニ對シ
テハ必ズ主務大臣ト書ク必要ハナイガ、内務大臣ト書イタ所デ別ニ差支ナイ
ト云フコトデ、斯ウ書イタ次第デアリマス

○議長(公爵徳川家達君) 小澤男爵ニ伺ヒマスガ、特別委員ノ數ハ通例ノ九
名デ宜シウゴザイマスカ

○男爵小澤武雄君 左様デス

〔山脇玄君發言ノ許可ヲ求ム〕

○議長(公爵徳川家達君) 山脇君ハ……

○山脇玄君 唯今ノ議長指名ノ特別委員ニ付スルト云フコトニ賛成イタシマ
ス

○議長(公爵徳川家達君) 小澤男爵ノ此法案ヲ特別委員ニ付託スルト云フ説
ニ、御異存ゴザイマセスカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(公爵徳川家達君) 御異議ナイト認メマス、特別委員ノ氏名ヲ書記官
ヲシテ朗讀ヲ致サセマス

〔岡書記官朗讀〕

史蹟名勝天然紀念物保存法案特別委員

服部 一三君	子爵大給	近孝君	子爵松平	乘長君
黒岡 帶刀君	男爵阪谷	芳郎君	岡田	良平君
水野 鍊太郎君	三宅	秀君	土田	萬助君

○議長(公爵徳川家達君) 日程第六、工業原料植物研究所設置ニ關スル建議
案、侯爵徳川頼倫君外六名發議、會議、建議案ヲ朗讀イタサセマス

〔成瀬書記官朗讀〕

工業原料植物研究所設置ニ關スル建議案
右貴族院規則第六十四條ニ依リ提出候也

大正八年三月八日

發議者

侯爵徳川 頼倫	伯爵林 博太郎	子爵榎本 武憲
古市 公威	谷 森 眞男	三宅 秀

贊成者

石渡 敏一

侯爵蜂須賀 正詔 伯爵柳澤 保惠 伯爵廣澤 金次郎
伯爵大木 遠吉 伯爵柳原 義光 伯爵松平 賴壽
伯爵小笠原 長幹 男爵小澤 武雄 平山 成信
子爵山口 弘達 子爵松平 康民 子爵實吉 安純
子爵松平 直平 子爵青木 信光 子爵牧野 忠篤
子爵酒井 忠亮 子爵前田 利定 淺田 德則
男爵石黑 忠惠 高崎 親章 男爵中川 興長
河村 讓三郎 男爵武井 守正 男爵内田 正敏
男爵肝付 兼行 男爵山内 長人 男爵若王子 文健
男爵德川 厚 男爵眞田 幸世 男爵安場 末喜
男爵坪井 九八郎 男爵赤松 範一 藤田 四郎
仁尾 惟茂 伊澤 多喜男 高橋 作衛
大谷 嘉兵衛 鈴木 惣兵衛 石橋 謹二
鎌田 榮吉 鎌田 勝太郎 矢口長右衛門
橋本 辰二郎 高橋 隆一 島 定治郎

貴族院議長公爵徳川家達殿

工業原料植物研究所設置ニ關スル建議

近時工業用ノ植物原料ノ缺乏日ニ甚シク之ヲ等閑ニ付スルトキハ將來國內ノ生産力ヲ減損スルノ虞アリ因テ政府ハ速ニ工業原料植物研究所ヲ設ケ以テ原料植物ニ關スル研究ヲ行ハシメ汎ク利用及供給ノ途ヲ講セシメムコトヲ望ム

右建議ス

〔三宅秀君演壇ニ登ル〕

○三宅秀君 本員モ建議案提出者ノ一人デゴザイマスルカラ、簡單ニ此建議ヲ致シマスル由來ヲ一言イタシマシテ、續イテ一大研究所ヲ設立イタサナケレバナラスト云フコトノ必要、竝ニ此研究所ヲ致シマスル研究事項ノ一二ヲ申上ゲタイト思ヒマス、勿論今日ノコトデゴザイマスルカラ、成ルベク簡單ニ要點ノミヲ申述ベル積リデアリマスガ、事ノ起リハ矢張り歐羅巴デ、數年ニ互リマスル大戰ガ本デゴザイマスル、歐羅巴デ大戰ガ起リマシテ以來、各

國デ敵モ味方モ先ヅ最初ニ研究ヲシ實行ヲ致シテ居リマスルコトハ、兵器及糧食ノ供給ナドニ付テ、敵モ味方モ研究ヲ致シテ居リマス、私モ自分デ被服竝ニ糧食ノコトニ付キマシテ、聊カ外國デ致シテ居リマスコトヤ、或ハ日本古來ノ糧食ナドノコトニ付キマシテ取調ヲ致シテ居リマシテ、就中、漢土竝ニ本邦自國デ研究ノ積ンデ居リマスルノハ、彼ノ救荒植物ナルモノデ、凶歲ノトキニ食物ニ窮乏イタシタトキニ、ドウ云フモノヲ以テ食物ノ足りナイノヲ補フカ、或ハ如何ナルモノヲ以テ主食ノ代用ニスルカト云フヤウナ研究ハ支那傳來デ、日本デモ十分サウ云フヤウナ研究ハ出來テ居リマスカラ、ソレ等ノ古イ物ヲ調べテ居リマスル際ニ、彼ノ飢年要録ト申シマスル書物ヲ讀ンデ居リマスルト、其中ニ偶然ニモ四木三草ノ培養ヲ怠ルナト云フコトヲ庶民ニ示シテゴザイマス、此四木トゴザイマスルノハ桑ノ木、茶ノ木、楮ノ木、ソレカラ漆ノ木デゴザイマス、ソレカラ三草ト申シマスルノハ被服ノ方ニ使ヒマスル所ノ麻ト綿ト染料ニ使ヒマス藍デ、此三ツノモノト上記ノ四ツノ種類ノ木ノ培養ヲ平日怠ルナト云フコトガ示シテゴザイマス、饑饉ノ時ニ必要ナ植物等ヲ書イテアリマスモノノ中ニ、唯今申シマシタ所ノ四木三草ト云フモノハ皆工業用ノ植物デアリマシテ、直チニ取ッテ吾ハ食フコトノ出來ヌモノデゴザイマス、饑饉ノ時デスカラ食フコトガ第一ダラウト思ッテ居リマス、其饑饉ノ植物ニ工業用ノ植物ガ舉ゲテゴザイマスカラ、國ガ貧シクナリマスト被服其他ノモノニ、同時ニ注意ヲ注ガナケレバナラスモノト云フコトヲ大ニ悟リマシテ、昔ノ爲政者ハ深遠高崇ナル所ヘ注意ガ届イテ居ルト云フコトヲ深ク感ジマシテ、是ハ食物ノ供給バカリニ汲々トシテ居ルモノデナイ、工業用ノ植物類ト云フモノヲ特ニ研究シテ居ルコトガ、日本ニハ是マデ乏シイヤウニ存ジテ居リマス、歐羅巴デモ近頃ニナリマシテ、食糧ノ代用品ナドヲ研究シ始メタ位デアリマスカラ、我國デハ古クカラヤッテ居リマスコトデハゴザイマススケレドモ、工業用ノ植物ナドノ研究ガ至ッテ乏シウゴザイマスカラ、晏然トシテ居テハ、此建議案ノ最初ニ書イテアリマス通りニ、追々殖産工業ノコトガ進ンデ參リマシテ、原料ニ構ハンデ置イテハ、原料ノ缺乏ヲ來タシテ遂ニ殖産工業ノ途ト云フモノハ、獨リデニ潰レル、獨リデニ衰亡ニ傾クト云フコトガゴザイマスカラ、速ニ斯ウ云フコトノ研究ヲスルヲ必要トスル、歐羅巴邊リデヤッテ居リマスル眞似ヲスルヤウデアリマススケレドモ、遅レバセナガラモ今日一日モ忽ニスルコトガ出來ヌ、即チ戰後經營ノ一ツト致シテ、

緊急缺クベカラザルコトト存ジマシテ、此建議案ヲ提出イタシタ譯デアリマス、ソコデ此研究所ノ設立ノコトニ付キマシテハ、理化學研究所ト云フモノガ近頃設置ニナリマシタガ、此理化學研究所ト云フ所ハ頗ル高尚ナ學理ヲ攻究イタシテ、ソレニ基イテ實地ノ應用ノ研究ヲスル場所デ、而モ國庫カラモ其補助ガ出マシテ官民一致デ拵ヘテゴザイマス、デ我々ノ希望シテ居リマスル所ノ此研究所デ研究スル仕事ハ、唯一私人ナドガ企テマシテ、小サイ極ク幅ノ狹イ工業用ノ植物原料ヲ研究スルト云フヤウナコトデナクシテ、廣ク専門中ノ専門家ガ集リマシテ、種々ノ方面ニ向ッテ原料トナルベキ所ノ植物ノ研究ヲ致シタイト考ヘテ居リマス、從ッテ一私人ノ計畫イタシマシタ小規模ノ研究所デハ逆モ斯ウ云フ有力ナ人々ヲ集メルト云フコトモ出來マセズ、又己ノ目的トスル狹イ物質上ニ付テノ研究ヲ致シテ居テ、廣ク諸方面ニ互ッテ研究ヲスルト云フコトガ出來マセスカラ、是非トモ一大官立研究所ト云フモノヲ建テナケレバナラヌト云フコトヲ感ジタ次第デアリマス、次ニ範圍ハ今申上ゲマシタ通りニ諸方面ニ互ッテ、至ッテ廣ク研究ヲ致ス筈デアリマスルガ、高尚ナル専門的ノ學理ヲ以テ研究イタシマセスト云フト、例ヘバ代用ノ品、代リニナルベキ品ヲ研究イタスコトニ付キマシテモ、餘程廣ク手ヲ擴ゲテ材料ヲ集メテ比較研究ヲ致サスケレバナリマセヌ、是マデハ物資ノ缺乏ヲ告ゲマシタ時分ニハ、其品物ノ適否ノ攻究ニ違アラズシテ、何デモ取ッテ以テ代用品ニ使フト云フヤウナ嫌ゴザイマシタガ、此度出來ル所ノ研究所ニ於キマシテハ左様ナ淺薄ナ考デナクシテ、適所ニ適材ヲ用ヒルト云フヤウナコトニ致シテ、餘程高遠ナ所ノ學識ヲ以テ研究ヲ致シテ、今マデ使ッテ居リマシタ所ノ材料ガ惡リト分リマシタナラバ、又新シキ別ノ品物ヲ以テ代用ニスル、或ハ今マデ使ヒ來ッテ居リマスル所ノ材料ガ、追々品ガ落チルト云フヤウナコトデアリマシタナラバ、植物學ノ學理ヲ以テマシテ、之ヲ培養スル所ノ方法マデモ細カニ研究スル、ト斯ウ云フヤウナコトヲ企テ居リマスルノデゴザイマス、ソレ故ニ此理由書ノ中デハ利用ノ方法ヲ改良イタシマスルモノ、或ハ又總テ其物質ノ特性ヲ檢シ其繁殖ヲ圖リ利用ヲ講ジト云フヤウニ細カニ色々ナ諸方面ニ互リマシテ、是等ノ研究ヲ致シマスルノデゴザリマス、餘リ低イ程度ノ學問ヲ以テ致スコトノ出來ナイ高イ……一層高イ所ノ研究所ニ致シタイト云フ考デゴザリマス、私ノ此案ヲ提出イタシマスルニ付テ、チヨット思付キマシタコトガゴザリマスカラ、ソレヲ此ヘ申添ヘテ置キタイト存ジマスルガ、前述ベマ

シタ如ク、草木ノ類ナラバ誰モ氣ガ付イテ居リマスルガ、我國ニ在ッテ歐羅巴ナドニゴザリマセヌ彼ノ竹ノコトデアリマス、竹ノコトニ付テ私ガ一ツ氣ノ付キマシタノハ、竹ト云フモノハ凡ソ六十年目ニシテ花ガ咲イテ竹ノ根ガ枯レテ仕舞ヒマス、而モ此六十年目ニ花ガ咲イテ根ガ枯レテ仕舞ヒマスル場合ニハ、例ヘバ孟宗竹ノ枯レル年モゴザリマスルシ、眞竹ノ枯レル年モゴザリマスル、デ花ガ出來テ實ガ生ッテ、サウシテ其實カラシテ竹ヲ實生デ養ヒ立テマスルノニハナカノ、大キナ孟宗竹ノ……大キナ筍ガ三年ヤ五年デ出來ルモノデハゴザリマセスカラ、此三年、五年ノ間ニハ此工業用ニ供スル所ノ竹材ト云フモノガ地ヲ拂ッテ無クナリマスル、此ニアリマスル東京ノ竹ハ枯レテモ西京ノ竹ガ枯レナイト云フ工合ダト都合ガ宜シウゴザイマスケレドモ、今ノ所デハ日本全國ハ申スニ及バズ、海ヲ跨イデ大陸ノ方ニゴザイマスル竹マデモ凡ソ六十年目ニ參リマスルコト云フト、孟宗竹ナドト云フモノモ皆品切レニナッテ仕舞フ筈デアリマス、サウシテ見マスル竹竝ニ竹ノ皮ヲ以テ、工業ヲ營ンデ居リマスル者ハ、二三年間ト云フモノハ商賣ヲ止メテ居ラナケレバナラヌト云フヤウナ譯ニナリマスルノデ、ドウカ致シテ研究ヲ致シテ、遺傳ノ研究トカ、或ハ其他培養ノ法ニ依リマシテ、六十年目ニ花ノ咲クモノハ致方アリマセヌガ、爰ノ場所ノ竹ハ枯レテモ他ノ場所ノ竹ハ枯レナイ、即チ國內全滅ト云フヤウナ災ニ罹ラヌヤウナ工夫ガ、研究上ニ付キマスルナラバ、大變ニ國家ノ利益ナリト思ヒマス、是ハ私ガ唯偶然ニ考ヘ付キマシタ研究ノ材料ノ一ツナノデアリマス、ソレカラ今一ツ此竹ニ付テ申シマスレバ、丁度此前ニ出來マシタ所ノ天然紀念物保存會ノ方ノ保存法ニ關聯シテ居リマスルコトデゴザリマス、日本ニゴザリマス極ク面白イ既ニ工業ニ依ッテ細工サレタルモノデアルカノ如キ彼ノ雅致ノアル斑竹ト云フモノガゴザリマスル、斑ラニナッタモノガゴザリマスル、此斑ラニナリマシタ斑竹ナドハ支那ニハゴザイマセウガ、殆ド日本、支那邊リノ特產物デアリマシテ、其中ニモ最モ一種ノ……絶滅サレテハ困ルヤウナ斑竹ナドガゴザイマスル、是等ハ天然紀念物ノ……先刻矢口君デスカノ御尋ニナリマシタ天然紀念物ノ例ノ一ツデアリマス、是非トモ是ハ保存ヲ圖ラナケレバナラヌ、隨ッテ保存ヲ圖ッタラ之ヲ利用シナイトイカスト云フト、丁度彼ノ法案ト此建議案ト相俟チマシテ天然紀念物ノ竹ノ枯レナイヤウニシテ、サウシテ日本ノ國產トシテ、外國ニデモ輸出ニナリ誇ルコトガ出來ル、斯ウ云フヤウニ保存ト利用ト相俟ッテ働クト云フノニハ、

外國デ眞似ノ出來マセヌ竹ナドガ最モ宜イ例デハナイカト存ジマシタカラ、
チヨット其事ヲ申シテ置キマスル、ソレカラ又皆サンノ御氣ノ付カレマセヌコ
トヲ今一ツ申加ヘテ置キタイト思ヒマス、今ノ斑竹ト云フモノノ出來マスル

ノハ……ドウシテ竹ノ肌ニ麗シイ斑紋ヲ生ズルカト申シマスルト、是ハ通例
申シテ居リマスル「バクテリア」トカ「バチルス」トカ云フヤウナ極ク細カイ細
菌ガ出來マシテ斑ヲ拵ヘルノデアリマス、醫者ノ口カラ申シマスルト「コ
レラ」ダノ結核ダノト云フヤウナ「バチルス」ハ、何時デモ恐ロシイ「バチル
ス」トノミシカ話ハ致シマセヌガ、私ハ國家ニ有益ナル所ノ「バチルス」ノ御
吹聴ヲ茲ニ申シテ置ク積リデアリマス、唯今ノ斑竹ナドノ出來マスルノハ、
全ク微菌ガ出來マシテ、サウシテ其微菌ガ面白イ斑紋ヲ造ッタモノデアリマス
ルカラ、微菌モナカク國家ニ有用ナモノガ出來マス、ソレカラ此研究所ニ附
帶シテ居リマスル研究ノ一ツハ酒、醬油、味噌等ノ醸造ニ用ヒマスル酵母、
即チ醱酵ヲ促シマス所ノ細菌類モ、此研究所デ十分ニ致ス積リデアリマス、
今大藏省ノ醸造試驗所デ酵母ヲ純正培養イタシテ、サウシテ酒ヲ造リマスル
カラ、善イ酒ガ百發百中デアリマススケレドモ、尙ホ此上ドレ程カ酵母ノ研究
ナドト云フコトニ手ヲ擴ゲテ行キマシタナラバ、更ニ簡便ナル更ニ有益ナル
モノナドモ、追々發見ヲ致シマスルデゴザイマセウ、又微菌モ自然ニ任セテ
置キマスルト、段々惡變イタシマスルケレドモ、ソレヲ惡變イタサセナイヤ
ウニ喰止メ、何時デモ精良ナル品ニシテ貯ヘルト云フヤウナ研究モ、斯ノ如
キ工業用植物研究所デ致スノデアリマス、植物研究所ト云フモノヲ申立テテ
出來タ上デハ、大キナ家屋ヲ戰艦、橋梁等ヲ造ルヤウナ大キナ材木バカリ拵
ヘルノヤ、或ハ又我々ノ日常食スル所ノ食物又ハ醫藥ナドノヤウナ色々ノモ
ノニ研究ヲ及ボシマスルノモ勿論ノコトデアリマス、幸ニシテ之ヲ委員ニデ
モ御付託ニナリマスル場合ニハ、マダ澤山私モ調ベテ御話スル材料モ持ッテ居
リマスガ、是ハ委員會等デ御話スルコトニ致シテ、チヨット皆サンノ御氣ノ
付カレナカラウト云フ、顯微鏡デ見ナケレバ見エナイヤウナ微菌マデモ、此
研究所デ研究ヲシテ貰ヒタイト云フ考デ、餘ホド廣ク普ク目ヲ通シテ建議案
ヲ提出イタシマシタ積リデゴザイマス、國家ニ取リマシテハ一日モ忽ニスル
コトノ出來ナイ研究所ト心得マシテ提出イタシタ譯デゴザイマスカラ、何卒
御賛成ヲ願ヒタウゴザイマス

○男爵高木兼寛君 本建議案ニ對シマシテ、政府當局者ノ御意見ハ如何ナモ

ノデアリマセウカ、幸ヒ農商務大臣ガ御出席ノヤウデアリマスカラ、之ニ對
シテ御意見ヲ伺ヒタイ

〔國務大臣山本達雄君演壇ニ登ル〕

○國務大臣(山本達雄君) 政府ニ於キマシテハ、是迄此工業ノ原料トナルベ
キ植物ノ研究ニ付キマシテハ、農商務ニ於テ農務局又ハ山林局ナドニ於キマ
シテ、色々調査ヲ致シテ居リマス、而シテ調査ヲ致シマシタル結果ハ其度毎
ニ印刷ニ付シマシテ、ソレハ世ノ中公ニシ、又ハ講演ナドヲ致シテ居ル
ヤウナルコトハ相應ニ今日マデヤッテ居ルノデゴザイマス、併ナガラ此モノヲ
如何ニシテ是ガ行クカト云フコトノ實際ニ當嵌メマシテ試驗、研究ヲナスコ
トニ付キマシテハ、十分ナル機關ヲ有ッテ居ラスノデゴザイマス、斯ノ如キコ
トハ、今日ノ進運ニ於テハ、研究ガ必要ノコトデアルト云フ考ヲ有ッテ居リマ
ス、今ノ建議案ニ付テハ、今日ノ時勢ニ於テハ必要ナルコトト承知シテ居リ
マス

○男爵小澤武雄君 本案ハ發議者ノ審ナル説明モアリ、又唯今政府ノ意嚮モ
御分リニナッタヤウデアリマススケレドモ、此事柄タルヤ、時勢ノ要求ニ應ジテ
發議ニナッタ所デアルガ、併シ研究ヲスル途ハ最モ廣カラウト思ヒマスルノ
デ、此際特別委員ニ付託シテ十分ナル審査ヲセシメラレムコトヲ希望シマス、
而シテ其特別委員ハ九名トシテ議長ニ御選任ヲ願ヒタイト存ジマス

○男爵高木兼寛君 特別委員ニ付セラレルコトニ賛成シマス

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(公爵徳川家達君) 特別委員ニ付託スル説ニ御異存ゴザイマセヌカ
ヲシテ朗讀イタサセマス

〔岡書記官朗讀〕

工業原料植物研究所設置ニ關スル建議案特別委員

伯爵津輕 英麿君 子爵永井 尚敏君 子爵井上 匡四郎君
男爵高千穂 宣麿君 古市 公威君 男爵平野 長祥君
谷 森 眞男君 高橋 琢也君 平尾 喜三郎君

○議長(公爵徳川家達君) 日程第七、下關港修築ノ請願、會議

〔左ノ意見書案ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノタメ茲ニ載録ス以下之ニ倣

フ

意見書案

下關港修築ノ件

山口縣下關市大字上田中町士族公吏不破彦磨外四百二十三名呈出
右ノ請願ハ下關港ニ於ケル内外貿易ノ發展ハ近時著シキモノアルノミナラ
ス戰後東洋及南洋ニ於ケル各國貿易ノ活躍ハ同港ヲシテ一大貿易港タルノ
設備ヲ有セシムルヲ必要トスルコト明ナルヲ以テ政府ノ計畫トシテ小戸ノ
瀬戸ヲ閉鎖シ下關彦島間ノ海底ヲ浚渫シ内務省ノ施工ニ係ル埋立地並沿岸
一帯ヲ整理シテ大船ノ碇泊ニ適スルヤウ同港ヲ修築セラレタシトノ旨趣ニ
シテ貴族院ハ願意ノ大體ハ採擇スヘキモノト議決致候因テ議院法第六十五
條ニ依リ別冊及送付候也

大正八年 月 日

貴族院議長公爵德川家達

内閣總理大臣原敬殿

○議長(公爵德川家達君) 請願委員長報告通りテ御異存ゴザイマセスカ

「異議ナシ」ト呼フ者アリ

○議長(公爵德川家達君) 御異議ナイト認メマス

○議長(公爵德川家達君) 第八、喫煙取締法制定ノ請願、會議、第九、八戸
町ヨリ久慈町ヲ經テ野田村ニ達スル輕便鐵道敷設ノ請願、會議、第十、天鹽
線ヲ稚内ヨリ起工速成ノ請願、會議

意見書案

喫煙取締法制定ノ件

廣島縣比婆郡山内西村商山中武右衛門呈出

右ノ請願ハ目下喫煙ノ取締完全ヲ闕キ殊ニ公衆ノ集合スル寄席劇場等ニ於
テ其ノ甚シキヲ見ル故ニ是等ノ場所ニ於テハ必ス一箇以上ノ喫煙室ヲ設ケ
シメ其ノ設備ナキ所ニ於テハ喫煙ヲ禁止スル等相當ノ取締法ヲ制定セラレ
タシトノ旨趣ニシテ貴族院ハ願意ノ大體ハ採擇スヘキモノト議決致候因テ
議院法第六十五條ニ依リ別冊及送付候也

大正八年 月 日

貴族院議長公爵德川家達

内閣總理大臣原敬殿

意見書案

八戸町ヨリ久慈町ヲ經テ野田村ニ達スル輕便鐵道敷設ノ件

巖手縣九戸郡久慈町平民農晴山重三郎外百五十九名呈出
右ノ請願ハ青森縣下八戸町ヨリ巖手縣下久慈町ヲ經テ野田村ニ達スル輕便
鐵道ヲ敷設スルハ沿岸地方ノ産業ヲ開發スルハ勿論野田村ニ鄰接スル下閉
伊郡北部各村ニ多大ノ便益ヲ與フルヲ以テ速ニ之ヲ實行セラレタシトノ旨
趣ニシテ貴族院ハ願意ノ大體ハ採擇スヘキモノト議決致候因テ議院法第六
十五條ニ依リ別冊及送付候也

大正八年 月 日

貴族院議長公爵德川家達

内閣總理大臣原敬殿

意見書案

天鹽線ヲ稚内ヨリ起工速成ノ件

北海道宗谷郡稚内町商廣澤惣吉外百七十六名呈出
右ノ請願ハ北海道天鹽線ハ起點音威子府ヨリ起工シ大正十三年度ヲ以テ完
成ノ豫定ナルモ同地方面ハ天鹽川ノ斷崖ニ沿ヒ工事至難ナルヲ以テ同鐵道
ノ速成ヲ期スル爲該工事費ヲ分割シ終點稚内ヨリモ工事ヲ施行シテ且完成
期限ヲ大正十年度トセラレタシトノ旨趣ニシテ貴族院ハ願意ノ大體ハ採擇
スヘキモノト議決致候因テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及送付候也

大正八年 月 日

貴族院議長公爵德川家達

内閣總理大臣原敬殿

「男爵高木兼寛君發言ノ許可ヲ求ム」

○議長(公爵德川家達君) 高木男爵ハ何デスカ

○男爵高木兼寛君 是ハ委員長ニ質問イタシタウゴザイマス、此第八喫煙取
締法制定ノ請願ニ付テ……

○議長(公爵德川家達君) 宜シウゴザイマス

○男爵高木兼寛君 委員長ニ御尋イタシマスガ、是ハ如何ナル取締ヲナサレ

タイト云フコトガ請願ニナツテ居リマスカ、一言デ分ルヤウニ出來マスナラ御答ヲ願ヒタイ

○侯爵細川護立君 此請願文書表ニ在ル通り……

○議長(公爵德川家達君) 第八ヨリ第十迄ノ請願ハ採擇イタシテ御異存ゴザイマセヌカ

〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○議長(公爵德川家達君) 御異議ナイト認メマス

○議長(公爵德川家達君) 日程第十一、大正六年法律第六號軍人恩給法附則改正ノ請願、第十二、帝國在郷軍人會國庫補助ノ請願、會議

意見書案

大正六年法律第六號軍人恩給法附則改正ノ件

山梨縣東山梨郡春日居村豫備役陸軍歩兵中尉蘆澤龜藏外百八十六名呈出(十五通)

右ノ請願ハ大正六年法律第六號ヲ以テ軍人恩給法ヲ改正シテ恩給ヲ受クルノ事由カ明治四十四年三月以前ニ生シタルト同年四月以後ニ生シタルトニ依リ支給額ヲ異ニスルノ不公平ヲ除去セラレタルモ尙扶助料ハ大正九年分ヨリ退職恩給又ハ免除恩給ハ同一年分ヨリ初メテ増加セラレタル全額ヲ給セラルルハ物價ノ暴騰セル今日ニ於テ受領權利者ノ甚苦痛トスル所ナルヲ以テ大正八年一月ヨリ十二月迄ノ分ヨリ増加セラレタル全額ヲ支給セララルヤウ同法附則第五項及第六項ヲ改正セラレタル旨趣ニシテ貴族院ハ願意ノ大體ハ採擇スヘキモノト議決致候因テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及送付候也

大正八年 月 日

内閣總理大臣原敬殿

貴族院議長公爵德川家達

意見書案

帝國在郷軍人會國庫補助ノ件

福井縣敦賀郡敦賀町平民吳服商天野市松外三十九名呈出

右ノ請願ハ帝國在郷軍人會ハ軍人精神ノ鍛鍊ト軍事知識ノ増進トヲ圖ルヲ

以テ目的トシ國防上最重視スヘキモノナルニ拘ラス其ノ經費ハ主トシテ會員ノ醵金ニ俟タサルヘカラス斯ノ如キハ同會ヲシテ健全ナル發達ヲ遂ケシムル所以ニアラサルヲ以テ同會ニ對シ其ノ基本金トシテ相當ノ金額ヲ國庫ヨリ補助セラレタル旨趣ニシテ貴族院ハ願意ノ大體ハ採擇スヘキモノト議決致候因テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及送付候也

大正八年 月 日

貴族院議長公爵德川家達

内閣總理大臣原敬殿

○男爵高木兼寛君 此第十一ノ大正六年法律第六號軍人恩給法附則改正ノ請願ト、本日ノ議事日程ニ上リマシタル第四トハ、其内容ガ異ナツテ居ル譯デゴザイマセウカ、委員長ニ御説明ヲ願ヒタイ

○侯爵細川護立君 此内容ハ少シ異ナツテ居リマス、先刻蜂須賀委員長ガ御報告ノ際希望ヲ述べラレマシタガ、即チ此度ノ法律案ハ大正八年四月一日デゴザイマスガ、此請願ハ大正八年一月一日トナツテ居リマスカラ、其内容ハ違ッテ居リマス、此法律案ヨリ一步進ンダ請願デアリマス

○議長(公爵德川家達君) 是等ノ請願ハ請願委員長報告通りデ御異存ゴザイマセヌカ

〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○議長(公爵德川家達君) 御異議ナイト認メマス、次ノ議事日程ハ決定次第御通知ニ及ビマス、本日は是デ散會

午後二時十八分散會